

修猷館同窓会誌

# 2026 菁莪

令和 8 年 January/Seiga



## 表紙解説

修猷館は同窓会活動に熱心、卒業しても修猷愛にあふれているなどよく言われます。クラスや学年など横の集まり、部活動を通じた縦のつながり、国内外の各エリアで活発に展開されている面の活動。館友が二人寄れば、同窓会！という雰囲気、時や場所を選ばずに脈々と流れているのは、確かだと思います。さて、令和7年（2025年）は、例年にも増して、同窓会活動が活発な一年となりました。近畿、中京、長崎の修猷会は、誕生から50周年。部活動では、野球部や剣道部などが130周年、ラグビー部や水泳部が100周年。それぞれに多彩な記念の行事が企画されました。お寄せ頂いた原稿や写真は、褪せることのない青春の息吹を感じるものばかりでした。

修猷館同窓会が正式に発足したのは、1946年（昭和21年）11月3日。今年は、正式発足から80周年です！

星の徽章よ永久に。その思いを込めて、「菁莪2026」お届けします。

（文責・佐伯）

☞ 修猷館同窓会の「はじめ」は、ホームページをご覧ください。

<https://shuyukan-dosokai.com/management/18/>

修猷館同窓会誌

菁  
莪



リンク先 URL

(<https://shuyukan-dosokai.com/seiga/>)

御挨拶	野田純嗣	1	沖繩修猷会	新藤直人	32
館長就任挨拶	津本準二	2	鹿兒島修猷会	三好宣彰	33
同窓会副会長 就任挨拶	藤井一滋	3	東北修猷会	工藤砂織	33
近畿修猷会 代表世話人就任のご挨拶	中原滋	4	佐賀修猷会	駒井英基	34
特集			〓周年行事〓		
芥川賞作家鈴木結生さんインタビュー		5	米寿の前の同窓会	入江正徳	37
寄稿			しつとう会・卒業60周年記念同窓会の報告	吉田朋春	37
修猷館所蔵 牧野富太郎の植物標本	三浦清武	11	卒業50周年を終えて	長澤一成	39
キャリアアセミナー			「悟先云」還暦の集い	堀内恭彦	41
平八会キャリアアセミナー	原田優子	16	部活同窓会		
資料館案内	青木仁敬	19	修猷剣友会、修猷館野球部OB会、修猷館柔道倶楽部、修猷館高校バレーボール部OB・OG会、修猷館ラグビー倶楽部、修猷館水泳部OB・OG会「星泳会」、修猷館高等学校バスケットボール部同窓会、修猷館硬式庭球部OB会、修猷館山岳部OB会、修猷館サッカー部OB・OG会、墨猷会、修猷新聞OB・OG会、東京修猷美術会、修猷館応援部OB・OG会		
花盛り同窓会	高平良	20	学年一口連絡アンテナ		
同窓会総会報告	高田雅章	23	学校報告		
東京修猷会総会報告	福島直央	21	同窓会の歩み		
近畿修猷会総会報告	荒巻敬一郎	24	役員会・学年幹事会報告		
追悼			令和6年度 同窓会収支決算書		
故伊藤康彦氏追悼文	吉村壮平	25	令和7年度 同窓会収支予算書		
伊藤康彦先輩の巻頭言のご雄姿を偲んで	安西宏紀	26	令和6年度 同窓会会費入金状況		
「後輩達への優しくも熱い眼差し」			修猷館同窓会会則		
〓支部だより〓			同窓会事務局だより		
東京修猷会	上和田淳	27	令和6年度 一般財団法人修猷協会活動報告		
近畿修猷会 50周年	中原滋	28	修猷館同窓会役員名簿・各支部会長名簿		
中京修猷会 50周年	阿部野浩	29			
長崎修猷会 50周年	大熊稔幸	30			
熊本修猷会	井上昌治	31			
宮崎修猷会	光田靖	32			

# 御挨拶



同窓会会長

津田 純嗣

(昭和44年卒)

皆さま、明けましておめでとうございます。

令和七年度全国高校ラグビー大会福岡県予選において、修猷館は第二地区決勝まで進出し、あと一勝で花園というところまで迫りました。休日の外部模試を途中で切り上げ、貸切バスで応援に駆けつけた修猷生の行動は、修猷館の精神そのものです。同窓会より寄贈した人工芝が、日々の鍛錬と成長の一助となっていることを願っております。

その試合当日は、偶然にも近畿修猷会五十周年記念総会の日でもありました。五十年以上前、東京から大阪に転動した同窓生が、「福岡と東京にしかなかった同窓会組織を大阪にも立ち上げたい」と当時の安川同窓会長に訴え、懸命な組織化活動を開始されたことが、支部設立の起点となりました。その動きは全国に広がり、現在では福岡以外に十三の支部を擁するまでに発展しています。長年にわたり、各地域で同窓会活動を支えてくださっている皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

修猷館の米国研修旅行でも、選抜された十二名の生徒が現地の同窓生のサポートを受け、生活面はもとより、米国での活躍や社会との関わり方に触れる貴重な体験となりました。修猷の絆は、いまや世界へと確かに広がっています。これこそが、世代と地域を超えてつながる修猷館の大きな財産です。さて、令和七年は「トランプ関税」の騒動で幕を開けました。税率はいったん固まりましたが、高止まりの状況です。私は昨秋、二度にわたり米国出張の機会がありました。企業間の取引では関税による追加費用をサーチャージとして価格に乗せする慣行が広く浸透していました。つまり市場は、「関税は購入者負担」と見ているということです。

人々は、食料品の高騰に加え、日用品を含まずさまざまな価格上昇に戸惑いながらも、トランプ氏の言う「輸出者が関税を負担する」説を信じてはいませんでした。ただ、関税率がそのまま据え置かれるならば、今後は物価高の主因とはならず、来年の賃上げによって社会の混乱も収束するとの見方が優勢でした。言い換えれば、「しばらく関税はこのまま」という認識です。

日本でも物価上昇が庶民の生活を直撃しています。お米を除けば最大の要因は円安にあると言えるでしょう。諸外国では当たり前前の「インフレにに応じた賃上げ」が日本でも常態化する中で、人々の不安が段階的に解消され、景気的好循環へとつながることを期待しています。今こそ、日本は「インフレを前提とした社会システム」への転換を迫られていると感じます。

こうした社会の変化に伴い、修猷協会による修猷館への支援も、物価高に際して拡充が求められています。米国・アジア研修、部活動の全国大会出場、運動会・文化祭などの定常的な援助に加え、二百四十周年記念でのトイレのウォッシュレット化や、五年前のグランド人工芝整備なども、資金管理団体である修猷協会が、同窓会・学校・PTAの三者で協力しながら担ってきました。

これまでは、同窓会館一階のコンビニ賃貸料、駐車場収入などによって定常支出を賄い、非定常支出には資産の取り崩しで対応してまいりました。しかし今後は、修猷協会の運営改善を図り、経費・税負担の削減によって安定した定常支援体制を整えるとともに、創立二百五十周年など将来の節目に備えて、資産の強化を進める必要があります。

巻末に修猷協会への寄付の方法を記載しておりますので、どうか修猷館の未来を支えるというお気持ちで、前向きにご検討いただければ幸甚に存じます。

結びに、同窓生の皆さまのご健勝とご活躍、そして母校修猷館のさらなる発展を心より祈念申し上げます。

## 館長就任挨拶



### 野 本 準 二

令和7年4月に、第35代館長として着任した野本準二と申します。令和2・3年度の2年間、教頭として勤務しております。当時はコロナ禍の真只中でしたが、同窓会の皆様には学校支援のために物心両面から多大なるお力添えを賜りました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

特に、令和2年の人工芝グラウンド完成式典や令和3年の大運動会伝承会を、コロナ禍ながら実施できたことは、今も深く心に残っております。歴史と伝統ある修猷館に再びご縁を頂き、大変光栄に存じます。よろしくお願いいたします。

さて、再び修猷館に赴任し改めて感じるのは、生徒たちが見える圧倒的な熱量と、それを支えてくださる同窓会の皆様の温かいご支援です。このご支援は全国でも類を見ないと思います。

春の創立記念講演やキャリアアセミナーでは、多くの先輩方とその知見と経験を語っていただきました。夏のアメリカ研修では、現地在住の館友の皆様にも研修先まで調整頂くとともに、遠路シカゴからニューヨークまで激励に駆けつけてくださる館友

の方もいらつしました。世界に広がる修猷館ネットワークを体感し「自分も将来こうなる」と決意する生徒もおり、修猷館の縦の繋がりは、こうした経験から醸成されるようでした。

また、部活動の全国大会出場も多く、運動部では陸上部、山岳部、ヨット部。文化部では新聞部、書道部、放送部、化学部、ディベート部が全国大会に出場しました。こちらも現地で館友の方々から応援頂き、生徒たちの大きな励みとなりました。

「福岡の夏は山笠に始まり、修猷大運動会に終わる」の言葉どおり、修猷館の象徴、大運動会。企画から運営まで自分たちの力でやり遂げた生徒は、ひと夏をかけ目覚ましい成長を遂げました。また、創部100年を迎えたラグビー部の全国代表決定戦。敗れましたが、在校生の大応援団と沢山の先輩方とが世代を越え一体となってスタジアムで応援する貴重な経験をえました。画面越しでの沢山の応援にも感謝申し上げます。

このように修猷館の歴史と伝統は着実に生徒に継承されています。生徒たちが充実した学びと挑戦の機会を頂いているのもひとえに同窓会の皆様の温かいご支援の賜物です。文武両道の全人教育を通じて、「世のため人のため」に尽力する志高いリーダー人材の育成に努めてまいります。将来に向かい目を輝かせる生徒たちに、引き続きご声援を頂けると幸いです。

結びに、修猷館同窓会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 同窓会副会長 就任挨拶



藤 井 一 郎

(昭和50年卒)

この度同窓会の副会長を拝命しました。歴史と伝統のある修猷館の同窓会副会長を仰せつかるなど、思ってもいませんでした。津田会長からお電話をいただき、そのような重責、私ごとさとてもその任にあらず、と思ったのですが、返事は「はい」か「yes」、他に選択肢がない状況でした。

私は昭和31年に福岡市で生を受け、大学卒業までほぼ福岡で育ちました。就職したのは九州電力。在職44年、人事労務関係の仕事を中心に営業所や支社等の現場も経験しました。

九州電力には、昔も今も変わらない誇れるDNAがあります。それは「電力の安定供給」という最大の使命を全うすること。電力はインフラ中のインフラです。電気を途絶えさせてはいけない、台風等で停電した時は、一刻も早く復旧する。昼夜を問わずに復旧作業をする電力マンは、会社の誇りです。電力なしには国民生活も経済活動も成り立ちません。医療の提供にも支障をきたす、生命にも直結する重要インフラです。そうした電力事業に従事できたことを誇らしく思っています。約2年

半前に、縁あってクラフティア(旧九電工)に籍を移し、現在に至っております。

さて、私と修猷館について少し述べます。何とか難関修猷館に入学できた喜びもつかの間、最初の実力試験で完膚なきまでに打ちのめされました。各中学校の上澄みの集合体だけに、見たことのない順位をいただきました。その後は、人並み程度には勉強はしつつも、クラブ活動をするわけでもなく、のんびんだらりとした修猷館生活でしたが、クラス担任の水藤勝之先生、小柳陽太郎先生には多くの薫陶を受け、個性豊かな多くの友人との出会いが修猷館における最大の財産となったことは疑いようもありません。

同期とは卒業後の接点がより濃厚で、特に卒業後30年で迎える同窓会総会の幹事学年の時は、運動会や文化祭のノリで、50歳前のおじさん、おばさんが熱く語らっている図は、本当に楽しく、面白く、充実した空間でした。その時のテーマは「同窓会がそこにある」。私が勤務した福岡、長崎、熊本、鹿児島：いたる所に修猷館同窓会は「そこに」ありました。

我らも古希70歳を迎えます。鬼籍に入った仲間もいますが、大多数はまだまだ元気元気。修猷館で過ごした3年の何倍もの期間を生きています。各自の人生はそれぞれですが、修猷館同窓生であることで、どれほど彩が添えられたことか…。

修猷館同窓生としての絆は、これからの人生において、さらに強固なものになり、人生になくしてはならない「財産」であり続けます。その修猷館同窓会副会長、精一杯務めさせていただきます。宜しく願います。

## 近畿修猷会 代表世話人就任のご挨拶



中原 滋  
(昭和54年卒)

2025年11月15日の近畿修猷会総会にて、代表世話人に選任されました昭和54年卒業の中原滋と申します。近畿修猷会設立50周年の節目の年に、このような大役を担うこととなり身の引き締まる思いです。共同代表世話人として選任された同期の田口彰君と二人三脚で本会の運営を行ってまいります。

私の近畿修猷会との出会いは、社会人6年目に転勤で大阪勤務となった時から始まります。当時、銀行で外回り営業をしており「龍実商事」という会社に訪問したところ、事務所にどこかで見たことのある旗が飾ってありました。館旗では？とお尋ねしたところ、廣瀬信夫社長（元近畿修猷会幹事長）が出てこられて「修猷の卒業生か」と声をかけられ、「修猷健児はどんな苦労しても頑張らないといけない。きつと支えてくれる仲間がいるから」との励ましの言葉をいただきました。その後、長く東京勤務が続きますが、2010年に近畿修猷会の当番幹事学年が回ってきたので、近畿在住の同期から依頼があり、イベントを手伝いました。2021年春から、コロナ禍での業務

対応や私的理由もあり、大阪に転勤・転居し、改めて近畿修猷会に顔をだすようになった次第です。このような経緯から近畿修猷会では「外様」ですが、多くの先輩・後輩・同期に囲まれて高校時代を思い出しながら、同窓会の良さを改めて感じる今日この頃です。

さて、近畿修猷会は100周年へ向けて新たなスタートを切りました。これまでの諸先輩方の並々ならぬご尽力により、1000人規模の会員と連絡網が出来上がり、年2回の新聞発行やイベントを開催しています。毎年のスケジュールも当番学年と世話人会と一緒に練り上げて、会員の交流機会を創出しています。このフラットな組織運営は、若い世代とのコミュニケーションにも役立ちますし、日本一楽しい同窓会を支えていく基盤にもなっています。また、本会の最大の特徴であるクラブ活動は14団体あり、畿内各所で盛んに活動しています。課題としては、会員数が徐々に減少し、運営資金の確保や新会員募集に様々な困難が生じつつあることです。このような環境下でも、知恵と工夫と修猷魂で対応してまいりますので、今後とも近畿修猷会を宜しく願ひ致します。

※高校時代は山岳部所属。運動会は3年連続黄色ブロック。3年生の時は応コン副長。

恩師は長瀬先生（地学・物理）、白川先生（体育）、小柳先生（国語・古文）。

2年生の時にラグビー部が全国大会・花園へ出場。同じクラスにレギュラーメンバーもいて必死に応援しておりました。あの感動を再び！

芥川賞作家鈴木結生さんインタビュー

～あの校舎から芥川賞まで～

昨年9月、2024年第172回芥川賞を受賞された鈴木結生さん（令和2年卒）にお話を伺いました。図書委員として楽しく過ごした修猷館高校図書室でたくさんのお話を聞かせていただきました。

——芥川賞受賞から間もなく一年、鈴木さんの周りやご自身の生活でどんな変化がありましたか？

もう、ありとあらゆることが変わったと思いますね。受賞直後から、様々な仕事の依頼が続いて、ひたすらそれに対応してきましたが、一番はこれでちゃんと『小説家』と名乗れるようになったところですね。まず本が出たことが大きくて、家族もいろんな人に対して「息子は今、こういうことをやっています」ということをはっきり言えるようになったのではないのでしょうか。

——それは賞を受賞される前にイメージしていた世界とは違いましたか？

芥川賞を受賞した『ゲートはすべてを言った』の後に『携帯遺産』という小説を発表したのですが、その中では三十歳くらいの比較的成功的な小説家を主人公にしています。大体その小

説で書いていた通りだったかなと思います。「携帯遺産」は芥川賞を取った後に雑誌に載ったので、読む人からは「作者の自己言及性が高い小説だ」と思われるかもしれないのですが、実際には賞を取る前に書いていた小説です。様々な小説家の自伝やインタビューなどを読んで、ある理想的な・典型的な小説家像みたいなものを立ち上げてみました。ですから、自分の経験を書いたわけではなかったのですが、図らずも小説が先に予見していたものを自分が後追いついてる感じで、それはちょっと面白かったですね。ただ、仕事の依頼も含め、ここまで多方面に影響が出るというのは、さすがに想像してなかったです。

——今日は図書室をお借りしていますが、ここは鈴木さんにとってどんな場所だったのですか？

三年間図書委員をやっていたので、毎週末来ていたと思います。真面目な図書委員じゃなかったなので、遊びに来る場所っていう感じで。ただ、今も図書室に貼っていただいているような企画ものには積極的に参加していました。基本的に図書館の本を借りることもなかったです。高校までは、本っていうのは絶対に自分が所有してないと読もうという気にならなかったもので、全部自分で買っていました。大学に入ってから、これではお金がいくらあっても足りないってことに気づいて、総合図書館とか大学



図書館とかを大いに利用して小説を書いていくようになりました。修猷館は自分のやりたいことを自由にやっていいとは言いつつ、何だかんだ進学校ですから、本当の意味で自分のやりたいことがやれるような場所はあまりなかったように思います。そんな中で、図書委員は割と「居場所」だったというか。大学受験が究極の目的とされる環境において、文化祭のクラス展示をやっている時とか、図書委員をやっている時とか、そういう「ある瞬間だけは楽しい」というのを表している場所の一つですね。

——文化祭の話が出てきましたが、文化祭は鈴木さんにとって楽しい時間だったのですかね？

そうですね。一年生の時のクラス企画は『平成』がテーマでした。平成が終わる年だったので、平成を振り返るみたいな企画で、僕が任されたのが3・11の企画でした。僕自身が東日本大震災を経験していたから、そこを任されて、原発の問題や現代日本について同級生とかなり深く語り合いながら作ったっていうのは、やっぱり僕にとってはいい思い出でしたね。二年生の時はクラス展示全体の構想を僕が考えました。テーマは『架空国家』。僕が架空の国家の偽史や文字体系、宗教の聖典まで全部作っ



て、それで博物館展示みたいなものを作りました。実際には存在しないものを、あたかも存在するかのように見せる、という（勿論フィクションというのは全部そういうものですけど）、文学的にはホルヘ・ルイス・ボルヘスという人が徹底的にやったことを、インスタレーションでやってみよう、という試みだったのです。それは恐らく修猷館でないとできなかった、というか、周りにいるのが修猷生じゃなかったら絶対に付いてきてくれないことだったな、とは思いますが。同時に、あれは人生で唯一の共同作業だったとも思います。僕は基本的には個人技の人間なんです。世界をどこまでも作り込んで、その表現について満足いくまで試行錯誤する、というのは今に至るまでずっとやっていることですが、あの時ばかりは、自分だけの世界というより、大枠を作り、その中に参加する人々の創意工夫が発揮できるような隙間を残しておく、という感じでした。

——震災を経験されたとのことですが、その後の鈴木さんの読書などに影響は大きかったですか？

勿論、子供の頃から読書は沢山していたのですが、震災後は原発事故の影響で外に出られなかったですから、それで室内で沢山漫画を読んだり、自分で描いたりするようになった。それから福岡に来て、更に本を沢山読むようになったのは、もしかすると喪失した何かを探し求めるためだったのかな、と思ったりもします。勿論、完璧に復元することはできないにせよ、いわば「故郷復元」の試みとしての読書というのでしょうか。僕が大変好きな言葉で、T. S. エリオットという詩人

が『荒地』のラストに書いている  
「These fragments I have stored  
against my ruin」という言葉があり  
ます。大江健三郎は「こんな切れつ  
ばしでわたしはわたしの崩壊を支え  
てきた」と訳していたと記憶してい  
ますが、文学作品を読むとき、その  
異世界を生きたことで現実逃避的に  
苦しみから逃れようとするみたいな  
感覚は僕にはあまりなく、むしろ大  
量にある本の中からフラグメントをいっ  
ぱい取り出して、なんとか今の自分  
を支えていくみたいな感じがありま  
す。ジョージ・スタイナーという人は  
「生き延びるための読書」みたいな  
ことを言っていましたけど、まさに  
そういう感じですね。地震という大  
きな災害によって故郷が失われてし  
まった後に、世界文学のアーカイブ  
の中からたくさんフラグメントをか  
き集めて自分の世界を崩壊から支  
える、という感覚がありました。あと、  
もう一つ大きかったのは、文学の世  
界には自分と同じようなことを考  
えている人たちがたくさんいるな  
あ、と感じたんです。先ほどのエ  
リオットの詩には第一次世界大戦  
の影響がすごく大きいわけですね。  
それを訳して、自分の本に引用し  
た大江健三郎は多分、第二次世界大  
戦の終戦とか安保闘争の経験とか  
の中で、エリオットの言葉に自らの  
拠り所を見つけたのでしょう。私  
は東日本大震災を通して、エリオ  
ットと大江を発見することができ



きた。そんなふうには自分のように  
生きようとした人を文学の系譜の中  
に見つけて、自分を大きな文学の中  
に位置付けて安心を得た、という感  
じはありますかね。

——それを落とし込んだのが高校  
時代に鈴木さんが書かれた『世界  
文学の樹』\*ですか？

それもあるかもしれないです。し  
かし、こういう「曼荼羅」的に世界  
の全体像を求めるとの無理性や問  
題性を自覚したことで自分の小説  
は変わったとも思っています。元々  
はこういう「世界文学の樹」を小説  
でも表現したいと願っていましたが、  
そこには必ず書かれない他者がい  
るし、そもそも自分自身の見ている  
世界像と他者の見ている世界像とい  
うのは一致しないかもしれないか  
もしれない。それは、人文科学の世  
界ではどうの昔に指摘されている  
ことだけでも実感を持って理解でき  
たのが大学生になってからでした。  
全体を総括できるような何かを作  
るのではなく、その失敗自体を描く、  
あるいは、その失敗から何か別の  
方法を模索するか、そういうことをや  
ろうとしたからこそ、自分はプロの  
小説家にはなれたのだと思いますね。  
勿論、僕の好きな小説家の中には  
そうじゃない人たちも沢山います。  
フロアーベルとかはもっとアマチュ  
アリズムということに誇りを持って、  
個人的なレベルで全体像をつかも  
うとした人だと思ったり、それこそ  
ゲーテなんて自分が世界全体を描  
けると信じてたんだとは思ったり、  
ただ「ゲーテはすべてを言った」と  
いう小説自体がある種の皮肉であ  
るように、ゲーテがすべてを言っ  
たとしても、今の僕たちはどうな  
のかっていうことがこの小説の本質  
ですか

ら、まさに小説そのものが挫折から始まったということは言えると思います。

——『ゲーテ』っていうのをテーマに選んだっていうのは、そのあたりが大きかったのですか？

ゲーテを選んだこと自体はもつと他の色々な要因がありました。元々、冒頭のティーバックのシーンが実際に体験したこととして、そういう意味で小説のテーマとしてゲーテを選ぶことには内的必然性があったのです。しかし、結果的にはゲーテを通して、現代的な世界の全体性について描くことが比重として大きくなっていったと思います。

——『ゲーテはすべてを言った』の中にジャム型とサラダ型があります、鈴木さんご自身はどちら？

本当は自分はジャムみたいなものを求めているのかもしれませんが。全体が一つの神の愛によって包まれた安息の世界。しかし実際の世界をそのように考える問題性も理解した上で、やっぱりサラダ的に生きることが求められているのだとは思いません。ただ僕自身は今、二者択一のどちらを選ぶかというよりも二項対立の間でどう揺れ動くかみたいなことに関心があるんです。とはいえ、結果的には「サラダの世界」と「ジャムの世界」というのが評論筋でも色々と取り上げてもらっていて、いっそそれで論文書いたら良かったな、なんて思ったりもします。でも、小説の中に出したっていうのがよかったのかな。ゲーテ全集を読んで、サラダとジャムの対比を思いついた時は、これで小説は書けるなと思いました。やっぱり小説全体を構成するとき大きな軸になるようなイメージみたいなのがあるとす

ごく強いんですよ。僕の小説って情報量多くて、テーマも結構たくさんあるので、何かキーになる一個がパチッと決まると読者もついてきてくれると思うけど、それが決まらなると僕自身も書いていて不安になります。だからこれまで書いてきた初期三部作はすべて、かなりガチガチに構成もテーマも決め打ちして、そこに色々な他のものもくつついてくる、というような形で書いていったように思います。本当はもつと力があればそういうことを決めなくともどんどん書いていけるんですけど、まだ自分の実力と読者との関係を考えて、親切に形成していかないとはいってましたかね。

——初期三部作はテーマを決め打ちと言われましたが、これからこんな形で書くというのはいか？

トルストイをテーマとした最初の作品「人にはどれほどの本があるか」と合わせて短編集を出そうと思っています。なるべく早く大きな小説を書きたいと思いつつ、今は地力をつけるために短編をやる。でも何はともあれ、とにかく修論を書き上げないと自由に創作もできないので、今は修論と芥川賞以降のいろんな仕事をこなしつつ、来年からはどんどん小説を書いていきたいと思っています。

——修論のテーマはシェイクスピアだそうですが、修論と創作活動は全く違うのですか？



やっぱり小説の方が大変です。修論は本を読んでそれについて書けばいいので、きついきついと言ってはいるけれど、実は楽しいです。小説は常に自分でありとあらゆることを決定しつつ、そこに自分の実存をかけていくので、集中心力が全然違います。ただ、今の僕は小説を書くためにまず修論みたいなのを考えて、それを集約して小説を書いています。今書いているシェイクスピアに関しての修論も、その上にボレヘスとシェイクスピアに関する短編小説を書きたいと思っているからモチベーションを保っているところはありますね。芥川賞以降はエッセイを頼まれることが多くて、エッセイや評論ばかり書いていたのですが、これと小説は全然違うことがわかりました。エッセイや書評の文体を知って、それがどんなふうまく書けるようになって嬉しかったのですが、その文体で小説を書くようになったらもう全然書けなくて。今は小説の文体を取り戻すのに時間をかけています。そのスイッチができるようになったら本場のプロ、書き手として成熟していると思いますが、まだ僕はスイッチに時間がかかっています。だから今、短編を書いてるのはハリハリかもしれないです。いろんな仕事を同時並行でやるスイッチができるようになります。いろいろの望みですね。でもやっぱり小説は楽しいです。小説を書くときにはたくさん小説を読んで、いろんな調べ物をして、小説だけに集中できるならこれ以上の幸せはないというぐらい楽しいです。

——いろんな調べ物をするときにチャットGPTとかそういうものを活用したりされますか？

僕は小説を書く時にネットで調べて分かるような情報はなる

べく書かないようにしています。それでちょっと難しくなり過ぎていくという反省はありますが、Google検索してすぐ出てくるようなものを使っても素材として面白くないところがあります。僕は調べものが好きで、資料収集が楽しいです。小説を書くときに好きなランクは一番が登場人物や店の名前を決めることで二番は資料集め、三番が文体を整えること、四番が整合性をとることなのですが、三番と四番は誰かがやってくれるならやつてもらいたい。ただ、自分でやらないと解放感がなくなっていうのもあるわけですね。登場人物の名前が決まったらもう五割ぐらい小説を書くのが終わっているというか、考えた時が一番面白い、頭の中でぐるぐるやっているとかが一番楽しい。だから西新を歩いてぐるぐる回って、こういう小説だという時が一番幸せで、パソコンでやり始めるといろいろ妥協しながらなんとか頑張るみたいな感じですよ。

——構想を立てる時、西新あたりをウロウロしていることが多いのですか？

昔から何もしていないときには必ず何かを考えている人間でした。この前、床屋に行ってシャンプーされていたら、いいアイデアがどんどん浮かんできて。ところが、ここで問題なのが、そういうときってメモができないじゃないですか、もう困ってしまつて。同じような経験は修猷館時代もあって、運動会で男子が上裸にされてタンブリングの練習するじゃないですか、その時って一番アイデアが湧くんですね。僕なんか体が大きかったから、大体一番下の方で、上の方の身軽な子たちがピラミッドやらタワーやらを完成させるのをじっくり待ってい

る役回りです。そういう時こそ小説のアイディアがどんどん湧いてくる。けど、それだとメモができない。何か反抗すると怒られますしね。だから、水筒のケースの中にちっちゃい鉛筆と紙をいつも入れていて、「水飲んで来い！」って言われたら、急いでその場でメモってました。まあ、そういう感じで、いろんなことをやらされても、常に心ここにあらずで、自分の書いている小説のことはばかり考えている、というそういう学生でしたね。

——高校時代で印象に残っている先生とか、覚えている授業と  
ありますか？

一年の時の文化講演会で、万葉学者の中西進先生が来られたことをよく覚えています。先生は、万葉集の分類は「雑」から始まるという話をされたんです。万葉集って分類が三つあって、愛を扱う「相聞歌」と死を扱う「挽歌」、それから「雑歌」なんですけど、いわば「その他」みたいな「雑」から全体の分類が始まるというのはかなり感動しました。日本にせよ西洋にせよカオスこそがやっぱり創作のもとにある。それまでは樹形図みたいな整然とした秩序を求めている人間だったけど、混沌の価値っていうか、雑であることの意味みたいなことに目覚めました。それは時代的な潮流もあったと思います。ちょうど僕が高校生になった頃から、世界的に多様性だとかLGBTだとか急激に議論され始めて、そんな中で中西先生が「雑」の価値を説かれた。愛と死ってというのは人間にとって殆ど絶対的な二元論だけど、それ以外のものへの眼差しが日本文化の根底にある

のだということ学んだのは、すごく大きな学びだったなっと思ってます。万葉集という文学作品を通して、自分の世界観全体が変えられる経験でした。あれがなかったら、僕は今よりちょっと偏見の強い人間として世に出ることになったんじゃないか、とすら思います。

——最後に同窓生に対して一言お願いします

本当に修猷館の方々が温かく応援してくださっているのを感じて、非常に嬉しいなと思っています。本を見つけたりしたら、館友の作品だと思って読んでいただけたらなと。いつかもしかししたら修猷館のことを書くかもしれないです。一応、今一つ短編を考えてはいるんですよ。館友の皆さんには楽しみにしていただけたら嬉しいですね。

※ 高校三年時に図書館の壁新聞

として描いた図「世界文学の樹」

現在も図書室に飾られている



## 修猷館所蔵 牧野富太郎の植物標本

三 浦 清 武

教諭（理科・生物）

## 要旨

修猷館には、植物学者の牧野富太郎と関連が深い植物標本が存在します。二〇二四年に、それらの標本のすべてをデジタル化しました。また、ラベル情報を整理しました。

その結果、標本は二八八点存在し、ラベルには五種類あることがわかりました。また、本校の標本と同じラベルが貼付された標本が、高知県立牧野植物園および東京都立大学牧野標本館に収蔵されていることがわかりました。

そして、二〇二五年に高知県立牧野植物園を訪問し、当時の修猷館館長から牧野富太郎に送られた二通の督促状と一葉の葉書が収蔵されていることを確認しました。

## 序論

牧野富太郎は、江戸、明治、大正、昭和を生きた植物学者です。約四十万点の植物標本を採集し、生涯に約千四百の学名を発表しました。この他にも、ヤッコソウ科を創設し、『牧

野日本植物図鑑』を著しました。その独創的な生きざまから、二〇二三年に放送されたNHKの連続テレビ小説「らんまん」のモデルとなりました。

本校には、牧野富太郎と関連が深い腊葉標本（さくよう標本）台紙に貼られた植物標本。以下、標本と記す。）が存在します。この事実は、二十年以上前から知られており、その来歴についても研究されたことがありますが、二〇二三年から理科の清水涼子主任実習助手が本格的に整理を開始しました。そして二〇二四年から私が、これらの標本についての研究を再び進め、整理をすることにしました。

## 結果

## (一) 標本の鑑定

私は二〇二四年六月五日に高知県立牧野植物園を初めて訪問しました。そして、研究員の藤川和美氏に標本（121ヤナギタデ）を見ていただきました。その結果、「ラベルの字は、牧野富太郎の字に間違いない」とのことでした。ただし、「台紙への貼付け作業等は、牧野富太郎の手によるものではないだろう」とのことでした。

## (二) 標本のデジタル化およびラベル情報の整理

二〇二四年八月に標本のデジタル化が完了しました（図1）。

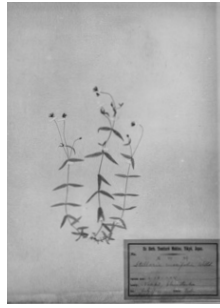


図1 標本のデジタル画像

Ex Herb. Tomitarô Makino, Tokyô, Japan.

石竹科

*Stellaria ruscifolia* Willd.

Japanese name : シコタンハコベ

Locality : Nikkô, Shimotsuke

Date : July 1904 Collector : T.M.

現在の栃木県日光にて、1904年7月に牧野富太郎が採集し、シコタンハコベと同定した標本。行動録には7月1日下野日光女峰山赤薙山の記録がある。

また、ラベル情報を表計算ソフトにまとめました。その結果、本校には二八八点の標本が存在することがわかりました。二八八点の標本における種数は二七一種でした(二点あるものが一七種)。また、ラベルに記載されている科数は四八科でした。ただし、科名は当時のものであり、現在の科名とは大きく異なっていました。例えば「敗醬科」の「敗醬」とは秋の七草である「オミナエシ」のことで、この科名は現在、用いられていません。

### (三) ラベルの分類

ラベルは五種類(タイプ1~5)に大別できることがわかりました。

#### (四) 研究機関に収蔵されているラベルの調査

① 高知県立牧野植物園の藤川和美氏に本校と同様のラベルがないか、調査を依頼しました。その結果、字の特徴が酷似したラベルが発見されました。

② 東京都立大学牧野標本館の加藤英寿氏に本校と同様のラベルがないか、調査を依頼しました。その結果、タイプ1のラベルと同様のものが発見されました。

#### (五) 採集年による分類

タイプ1では一九〇四年に採集したものが最多でした。なお、一九〇四年は牧野富太郎が四三歳の頃です。

一方、タイプ2標本では一九〇七年に採集したものが大多数を占めました。

#### (六) 採集地による分類

タイプ1のラベルは、採集地がローマ字表記となつています。Tokyo (東京)をはじめ、Shimotsuke (下野)、Musashi (武蔵) など、関東近辺で採集されたものがほとんどです。特に、採集地が「Nikkô, Shimotsuke」となっているラベルが五二点ありました。しかし、北海道で採集されたものが三点、近江、伊勢、肥前で採集されたものがそれぞれ一点など、遠方で採集されたものも含まれていました。

なお、北海道で採集された三点のラベルの内容は、『牧野富

太郎 植物採集行動録 明治大正編』(以下、行動録)の内容とも一致しました。031 ヒヨクサウのラベルは「Muroan, Hokkaido」[July 1903]です。行動録の一九〇三年(明治三六年)七月には、「二六日 利尻山採集(加藤泰秋子爵の高山植物採集に同行七月二六日発)」の記述があります。

(七) 牧野富太郎と修猷館との関係を裏付ける資料

高知県立牧野植物園にある牧野富太郎の蔵書や遺品類を収める「牧野文庫」には、当時の館長(小寺甲子二 第五代館長、一九〇一年 明治三四年八月〜一九〇五年 明治三八年九月)から牧野富太郎にあてた二通の督促状が収蔵されていることは以前から知られていました。

二〇二四年に改めて、高知県立牧野植物園の藤川和美氏に、修猷館と関連する資料が残っていないか調査を依頼したところ、新たに「遺品資料番号00092 手紙 牧野富太郎宛葉書 割愛植物標本催促の葉書 一九〇五(明治三八)年 四月五日福岡県立修猷館高等学校」が見つかりました(図2)。早く教育品製造会社へ標本を引き渡してほしいという内容です。

二〇二五年に私は実際に牧野文庫を訪問し、これらの書状の実物を手に取る機会を得ました。葉書には「筑前 西新町」の消印が押されており、確かに修猷館から牧野富太郎宛に送られたものであることが確認できました。

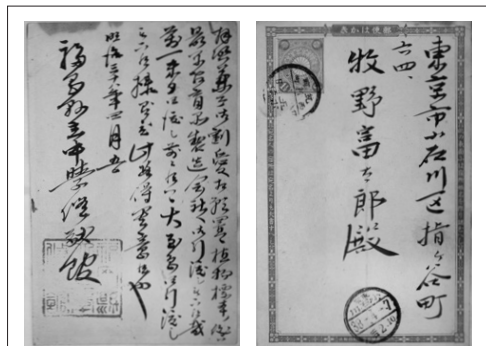


図2 牧野富太郎宛葉書の画像

(高知県立牧野植物園 牧野文庫収蔵)

左:裏面 右:表面

福岡県立中學修猷館から牧野富太郎宛に送られている。早く教育品製造会社へ標本を引き渡してほしいという内容が記されている。「筑前西新町」の消印が押されている。

## 考察

### (一) 標本の真贋

タイプ1のラベルは、高知県立牧野植物園の藤川和美氏に標本(121 ヤナギタデ)を鑑定していただき、牧野富太郎の直筆であると鑑定されました。また、多くのもので採集場所や採集日が行動録と一致しました。よって、タイプ1の標本は牧野富太郎が採集し、かつ、ラベルも牧野富太郎自身が書いたものと判断します。

タイプ2のラベルは、完全に同じものが東京都立大学牧野標本館に収蔵されていることから、牧野富太郎から購入した標本

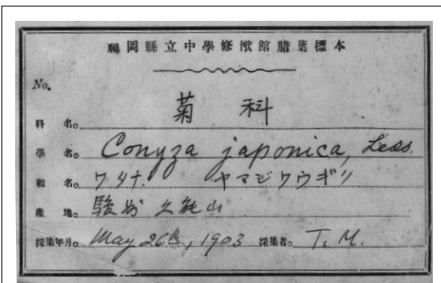
であることは間違いありません。しかし、ラベルの採集場所と採集日を行動録と照合すると、全く一致しませんでした。また、Collector（採集者）の記入もありませんでした。さらに、タイプ1とは全く異なる字体で書かれていました。これらのことから、タイプ2の植物は牧野富太郎によって採集されたものではなく、ラベルも牧野富太郎によって書かれたものではないと判断します。ちなみに、タイプ2のラベルのDate欄は「日・月・明治年」で記されています。例えば、「191040」は「一九〇七年十月十九日」を意味します。

タイプ3のラベルはタイトルが「Herb. Fukuokaken Shuyukwan High School」となっており、修猷館のために作製された標本であることがわかります。採集場所は「上總清澄山」であり、採集日は「41040」つまり「一九〇七年十月四日」です。しかし、行動録には一九〇七年十月四日の記載がありません。また、採集者が「ex牧野」となっています。よって、タイプ3の標本は、牧野富太郎自身が採集したわけではないが、牧野富太郎が所有する試料からつくられたものと判断します。

タイプ4（233）のラベルはタイトルが「Herb. Fukuokaken Chugaku Shuyukwan」となっており、一九〇一年に福岡県立中学修猷館と改称された事実と符合します。採集場所は「野州日光」であり、採集日は「10840」つまり「一九〇七年八月十日」です。行動録には一九〇七年八月十日の記載がありませんが、採集者が「T. Makino」となっていることから、牧野富太郎自身が採集したものと判断します。また、ラベルも本人が

書いたものと推測します。

タイプ5（250のみ）のラベルはタイトルが「福岡縣立中學修猷館腊葉標本」となっており、タイプ4と同様に福岡県立中學修猷館時代の標本です。産地が「駿河久能山」であり、採集年月は「May 26, 1903」であり、行動録の内容と一致します（五月二十六日、駿河久能村根古屋）。さらに、採集者が「T.M.」となっていることから、タイプ5の標本は牧野富太郎が採集し、かつ、ラベルも牧野富太郎自身が書いたものと判断します（**図3**）。



**図3** タイプ5のラベル

福岡縣立中學修猷館腊葉標本

科名：菊科

学名：*Conyza japonica*, Less.

和名：ワタナ ヤマジワウギク

産地：駿河久能山

採集年月：May 26, 1903

採集者：T. M.

ラベルの情報が行動録の内容と一致した（5月26日 駿河久能村根古屋）。

(二) ノヂシヤの由来

066 ノヂシヤのラベルに記載されている採集日は「May 4.

1891（一八九一年五月四日）」であり、採集地は「Tokyo（東京）」です。行動録には次の記述がありました。「一八九一年（明治二四年）三〇歳 五月四日 池野氏よりノヂシヤを貰えり。青山英和学校内にて採取せんものなり。」

池野氏とは、一八九六年にソテツの精子を発見したことで知られる、池野成一郎と考えられます。つまり、本校の標本のノヂシヤは、池野成一郎から譲り受けたノヂシヤの可能性が高いと推測します。

(二) 絶滅危惧種ハナハタザオの標本

274 ハナハタザオは、「Hiratsuka, Sagami」（平塚 相模）、つまり現在の神奈川県で採集されています。ハナハタザオについて調べたところハナハタザオは現在、絶滅危惧ⅠA類であり、茨城、山梨、静岡、熊本のみで生息していることがわかりました。また筑波大学森林生態環境学研究室 助教 川田清和氏がハナハタザオの保全に取り組んでいることがわかりました。

そこで、川田氏に標本の画像を送り、鑑定を依頼しました。その結果、次の回答を得ました。「ハナハタザオは花弁が特徴的です。標本にも色褪せていますが紫色の花弁がついているように見えます。また、葉は単葉で互生し、葉の基部が茎を巻き込まず鋸歯が目立つことから、葉の形態もハナハタザオの特徴を示しています。ほかにも大きい個体は根元で分岐する点や、茎の基部は赤紫色を帯びることもある点も、ハナハタザオと同じ特徴です」。

## 結論

今回の標本の整理およびデジタル化の過程を通し、牧野標本が修猷館の宝であることを再確認しました。

標本から学ぶことはまだまだあるため、今後も研究をすすめていきたいと考えています。ちなみに、これまでの成果をまとめたホームページが、令和七年度三年生の田中詢也氏、大神太一氏によって制作され、令和七年十二月に公開されました。これにより、修猷館が所蔵する牧野富太郎植物標本について、より多くの方々に知ってもらえるようになります。

最後に、小寺甲子二第五代館長のもとに届いたと推測される、牧野富太郎からの手紙類についてご存じの方は是非、修猷館までご連絡いただきたいと思えます。

修猷館高校のホームページで  
「牧野富太郎植物標本」288点が  
公開されています。

修猷館高校

検索



## キャリアアセミナー

### 平八会キャリアアセミナー



原田 優子

(平成8年卒)

卒業してからの三十年間、当時の恩師の言葉や記憶に残る館歌の歌詞、先輩や同級生の活躍が、私にとって大きな刺激となり苦しいときには心の支えとなってきた。社会人となつてからは特に、修猷館の卒業生ということで助けられることも多く、いつか何かの形で母校へ恩返しがしたいと思っていた。そんなある日、同級生から電話がかかってきた。同窓会のお手伝いと聞き、恩返しという言葉が頭をよぎつた私は、福岡在住だし、できることはするよと引き受けたのだが、なんとそれがキャリアアセミナー部会長のポストであった。同級生には適任者が多数いるにもかかわらず、私でいいのかと悩んだが、今やらずしていつやるのかとの思いが勝つた。

さて、引き受けたものの講師をどう集めるか。できるだけ受け講する在校生の選択肢が増えるよう理系・文系をバランスよく、

そしてできれば海外で活躍している講師にも参加してほしい。卒業後、すっかり同窓会をご無沙汰していた私は、ほとんど伝手もなく途方に暮れたが、学年同窓会や学年LINEグループで講師のお願いについて発信したところ、二十名を超える同級生が手を挙げてくれた。また、その後も総会実行委員会メンバーや引き受けてくれた講師が声かけに協力してくれたおかげで、目標の四十名(四十講座)を揃えることができた。

セミナー当日。全国、そして海外からも集まることから、天候や感染症などのトラブルを心配したが、講師もスタッフも全員無事に笑顔で集合することができ、正直、その時点で私はほぼ役目を終えたと早々にホッとしたので覚えている。後は仲間たちに任せれば大丈夫という自信があった。一伝えれば十、いやそれ以上に伝わり、最高のパフォーマンスを発揮してくれることをそれまでのやり取りで感じていたからだ。

講師控室では、同級生との久しぶりの再会により、大いに盛り上がった。皆、それぞれの分野で活躍し、部下も持ち、年齢は重ねているのだが、そこにあるのは当時の懐かしい光景だった。更に、恩師である中嶋先生が以前と変わらぬ穏やかな笑顔で駆けつけ、激励の言葉をかけてくださったことで、後輩たちへ思いを繋ぐという一体感が生まれたように思う。

「行ってきます」「行つてらっしゃい」お互いに声を掛け合い、講師はそれぞれの教室へと向かった。

初めは、緊張した雰囲気だった教室も後半にかけて、質問が飛び交い、笑い声が響き渡るようになり、卒業後三十年間の喜

びや苦悩、失敗といった講師自身の人生を赤裸々に後輩たちに伝える様子が各所で見受けられた。正にこれこそが卒業生がキャリアセミナーを行う醍醐味だと思う。弁護士、医師、教師、アナウンサー、エンジニア等々、職業の紹介だけなら誰が行ってもよいかもしれない。だが、教室という空間で一日限定で開催されるキャリアセミナーは母校や後輩たちを想う卒業生の愛情と修猷館の卒業生であるという誇りで成り立っていると感じた。パワーポイントを使つて、模型を使つて、資料を配布して、講師は自分なりに工夫を凝らした内容を全力で伝えていた。そして、そんな先輩の言葉に後輩たちは真剣に耳を傾けていた。

セミナー終了後に同窓会館で行つたおつかれさま会では、講師とスタッフ全員が輪になって、それぞれの近況報告をした。報告は一時間程度の予定だったが、話が尽きず二時間以上に及び、仲間の活躍に会場は大いに盛り上がった。お互いの報告に刺激を受け、年齢的に心身の揺らぎを感じ始めてはいるけれど、まだまだやれる！と背中を押されたとか、迷っていたことがあったけれど、挑戦してみようと思えたとの声がかかれた。

また、後日談として、在校生からある講師に連絡があり、具体的な行動を起こすためのやり取りがあったこと、また、セミナーを受講した在校生の保護者の方から感謝の言葉をいただいたことなどを聞き、キャリアセミナーの与える影響の大きさを改めて実感した。講師たちの話が、受講してくれた在校生の進路や夢を考える際の一助になればと思う。

セミナーを終えた講師の感想を一部紹介する。

- ・自身の仕事観、人生観が改まる経験でした。家族やその周りの支えてくださっている人々への感謝の気持ちも深まりました。
  - ・人生で修猷の教壇に立てることがこんなにも誇らしく、嬉しいものだと思いますでした。
  - ・受講後に一人ひとりが書いてくれたアンケートは、私にとつて一生の宝物です。
  - ・卒業後の三十年間を見つめ直し、未来の仲間へ何かお土産を渡せたとしたら、こんなに嬉しいことはありません！
  - 今回、キャリアセミナーに関わらせていただけただけことは、私自身にとつても、大きな節目となりました。支えてくれた総会実行委員会メンバーの皆さん、また、忙しい中、駆けつけ一緒にキャリアセミナーを作り上げてくれた講師や部会メンバーの皆さん、本当にありがとうございます。
- 最後になりましたが、このような貴重な機会をいただきました修猷館高等学校ならびに同窓会の皆さまに、心より感謝申し上げます。

## 令和7年度 卒業生キャリアセミナー

井上 葵	グローバルに活動する～国際法律事務所働く弁護士とは	白木 綾	医師の仕事の魅力と人生との調和～あなたにとっての幸せはなんですか～
西岡 里恵	理系から弁護士へ！華麗なる？転身を遂げた女弁護士のこれまでの道のりと仕事内容	野田 智宏	ある医師が専門分野を変えた理由
岡部 覚	IT、海外、会計監査、コンサル、どんなキャリアを選びますか？	原田裕美子	「お口の健康から人生を豊かにする」／歯科医師って素敵な仕事です！
森 健史	土業（サムライ業）として独立し、一国一城の主として働く	清島 久美	移植医療に携わる臨床検査技師のお仕事
淵ノ上亮次	「無から有を生み出す金融」貯蓄から資産形成へ」は本当なのか	大田 貴子	人の心を支える仕事～スクールカウンセラーを知り、心理職の世界を学ぶ～
波多江崇史	人や企業の悲しみと喜びに寄り添う仕事のお話	木下健太郎	小学校教員から校長、そして教育委員会へ
品川 政之	私と「見えない未来に自分の強みを30個言える」を目指す講義。	鳶 研一朗	夢の落とし前
田中 健吾	「最短コース・最高速度の幻想～或る凡人とスタートアップの事例から」	高平 良	好きな事全部やってみたら最後は英語の先生になってしまいました。
大場さおり	やりたいこと・なりたい自分を見つける	合山林太郎	“文学部人生”は楽しい！
山崎 顕	社会を動かすインフラ事業の魅力と挑戦	森久 智江	他人の人生を演じていたら犯罪学に出会った件。
古賀 静華	ラジオキャスター流聞き手の心をつかむ話し方！	安武 伸俊	星と核と素粒子と～究極物質を求めて～
谷口慎一郎	人に伝えるチカラとは？あなたのコトバで周囲や世界は変えられる！	森口 充子	キャリアってどう見つける？～「伝えること」を仕事にした私の場合～
宮本恵理子	元ダグズ長「インタビューライター」の生きる道	中村真次郎	建築設計を通してものづくりを楽しむ
日高 卓至	文系プログラマの生き方	川崎 拓生	スポーツとキャリア
廣崎 洋平	“好きな事を仕事にする魅力とは？”～ビール会社の仕事について～	斉藤 章人	あなたの理解は合っている!?カーボンニュートラルって何だ!!
佐藤 史佳	“今を一生懸命楽しむ！”～ある女性製薬研究開発員の背伸び記録～	原田 耕太	オト×社会貢献→補聴器ニッチな医療機器メーカーのお仕事
湊 新也	人生をHappyにするためのヒント	深江 良輔	鉄道土木技術者が支えるインフラ、地域、未来
堀岡 敬子	女性ヘルスケア～少子化社会における婦人科医の役割～	藤田 浩文	モノづくりで幸せを量産するトランスミッションからトヨタミライドンまで
今山 郁代	いろいろやってみて、今はアメリカで医者をしています	行武 忠孝	銀行業界からUターン起業へ【地域経済の緑の下の力持ちを目指して】
金谷 晶子	医学部は理系、臨床医は？	肥後 彰秀	起業？就職？動けばキャリアは拓ける！

## 資料館案内

修猷資料館は修猷館同窓会第3代会長江浦重成氏（大正2年卒）が昭和51年、私財を投じて藩学以来の伝統を持つ修猷館に關わる各種資料、同窓生の書画などを保存展示し、後輩の生きた教材とするために建設されました。

その後、同窓生等からの寄贈により収蔵物は増え、展示スペースの容量を超えるまでになりました。その結果多くの資料を収蔵庫に保管せざるを得ない状況となり、資料館の増改築を求め、声が上がることになりました。第8代会長の出光芳秀氏から県へ増改築の要請を出し了承を取り付け、修猷協会からの費用によって増改築に取り組み、修猷館創立230周年の年に合わせて平成28年3月にリニューアルオープンしました。

そしてこの度、資料館運営委員会では、修猷館の歴史と伝統をより学びやすく、また、多様な資料を用いてテーマ性のある展示を行っていくため、第2展示室にある展示ケース配置換えと展示替えを行いたいと考えています。天明4年（1784年）の修猷館創設と明治・大正から現代にいたる歴史を展示する常設展のゾーンと、人物や出来事など様々なテーマを設定して定期的な展示替えを行う特別展のゾーンにわたる展示替えを計画中です。常設展のリニューアルと特別展の第一弾展示は2026年内を目標として進行しています。

常設展のリニューアルで新たに入れ替える展示物は、探して

いる途中のものもありますが、藩校時代の校舎平面図（模写）、第1回卒業生に関する資料や試験問題、西新町への敷地移転当時の写真、卒業生が千人に達したときの祝賀資料、最初の館歌歌詞、そして英語専修修猷館時代の英語教科書などを予定しています。英語専修修猷館は修猷館全体の歴史の中では数年間の短い期間ではありますが、修業年限3カ年、英語専修を目的とし、英読本・英米史・数学・理科等の科目を英語の言語による教科書で勉強した時代です。修猷館再興当初の名称であるだけではなく、現在の修猷館に繋がるイノベティブな取り組みを行った時代として、資料を調査・展示していきたいと思っています。

特別展の第一弾展示では九州大学大学院との高大連携事業による企画展示を行いたいと考えています。人文科学研究院歴史学部門の岩崎義則准教授、国分航士講師の協力の下、修猷館と日本史学研究室との共同プロジェクトとして、大学院生と高校生が一緒になって企画展示の内容を検討する予定です。

修猷館の歴史と伝統を直に学ぶことにより、「修猷館の教育に受け継がれてきた時代を超える普遍的理念を重んじながら、将来の日本を担い、また世界へ羽ばたく、人間性豊かな人材を育成する」（出光芳秀氏の県への資料館増改築要請文書より）という教育目標が実現できる資料館を目指して鋭意努力していきたいと思えます。それにより、見学者が多くなれば嬉しい限りです。

資料館運営委員会 青木 仁敬（平成17年卒）

## 花盛り同窓会

### 同窓会総会報告



平八会 実行委員長

高 平 良

(平成8年卒)

2025年度の同窓会総会・懇親会に来ていただいた皆様、この場を借りて再度お礼申し上げます。ありがとうございます！当日は生憎の天気で来場者数も想定以上に少なかったのですが、このことにより、逆に会場での食事の量が一人当たりに対して増えることになり、「おなかいっぱいになったよ」といううれしい声を幾度も耳にすることにしました。少なくとも食事の面では結果として満足していただいたことになったように、うれしい誤算でした（快晴だったらどうなっていたんだろう…）。

企画に関しても、2024年のパラ五輪で金メダルを取った瀬戸さんに声をかけてみようという話はかなり早い段階から皆で話しておりました。そこへ芥川賞受賞者に突然後輩の鈴木さんの名前が出てきたことには実に驚かされましたが、「こんなタイミングは他にない」ということで、つてを頼りにお二人に

声をかけ、そしてお二人ともが「快諾」していただいたことに感謝しかありません。「文に 武に」という企画ではありましたが、お二人のおかげで更に盛り上がるものとなりました。貴重なお話を惜しげもなく披露していただき、お二人にも紙面上ではありますが再度お礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございます！（私個人的には平八会の掛け声である「修猷パワー」にもお付き合いただきありがとうございます。）

また約1年間、キャラバンで日本各地の同窓会支部へお邪魔させていただき、総会・懇親会のPRをさせていただきました。どこへお伺いしても温かく迎えていただき、また、グッズやチケットの購入などに多大なご協力をいただきました。関わっていただいたすべての皆様に、平八会を代表して重ねてお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございます。正直申し上げますと、「どこにいても楽しい」思い出しがありません。飛行機であったり、新幹線であったり、車の長距離移動であったりと、当時としては多少大変な思いもした気もしますが、それはるかに凌駕する楽しい思い出です。実行委員長としてこのような一連のPRに関わることができて、「超楽しかった」です！

年末年始には、各学年、或いは様々な部活などの各同窓会の忘年会・新年会などにもお邪魔させていただきました。ここでも皆様に温かく迎えていただきました。大先輩からの「がんばってね」という言葉を至るところでいただき、我々平八会のメンバーも心から励まされました。ありがとうございます。後輩の学年の同窓会にお邪魔させていただいた際にも、必死に総会

をPRする中年集団に多少怪訝そうな顔をされながらもなんだかんだで色々グッズを購入していただいたりと、老若男女を問わず、「修猷」というつながりだけで本当に様々な方々からご支援を賜りました。

今回の総会・懇親会のキャッチコピーは「みんなにこ25

修猷パワー ∞大」というものでした。平八のメンバー皆で「これでいこう」と決めたときは、私自身も含めて「修猷パワー」の本当の意味をわかっていた気もします。ですが、幹事学年となり様々な「修猷生」と出会う中で、「修猷パワー無限大」は「これマジやん！」と強く実感するようになっていきました。お話をさせていただいた諸先輩方、後輩の皆様は、ベクトルの向きはほんとにバラバラですが、誰もがバイタリテイの溢れる方ばかりで、「修猷スゴ！」と心から感じたのを今でも鮮明に覚えております。

2023年の7月、西新の同窓会館の役員会で、「平八会の実行委員長をさせていただきます」と挨拶をさせていただきました。この時点ですでに「平八会」としてのスタートが遅すぎで、「平八大丈夫なの？」とご指導をいただきました。不安要素しかない状況の船出でしたが「やるしかない」の一点張り一人で、また一人と声をかけ、平八メンバーを少しずつ増やしていきます、それでも先輩方のように人も集まらず、それでも「やりませぬ」と言ってくれたメンバーを中心に何とか突っ走ってきました。「あと2、3人うちの部署に人がいてくれたら」そんな思いを抱えたまま、各部署のメンバーが仕事や家庭を抱えながらも、私がお願した以上の仕事をこなしてくれました。

今回の懇親会の運営にあたり、実行委員長の私は平八会が担う各業務をこなしてくれたみんなには頭が上がりません。みなさま、ほんとうにありがとうございました！

## 東京修猷会総会報告



実行委員長

福島 直央

天猷会（平成10年卒）

2025年6月13日、西新宿のハイアットリージェンシー東京にて、令和7年度東京修猷会総会を無事開催いたしました。会場をコロナ禍前の場所に戻しての開催となりましたが、諸先輩方、後輩の皆様、そして同期・天猷会のみんなのご協力を得て、501名の方にご参加いただく盛大な会とできたことを感謝しております。

今年の総会は「星祭×星を集めて未来を照らそう」というテーマとしました。修猷館の卒業生は多士済々であり、多くの業界でいろいろな活躍をされています。その方々一人一人を「星」に見立て、その方々が集まり、交流することで、よりよい未来ができていくのではないかと、その人たちと祭り×交流を

していききたいという思いからテーマとしたものです。

今回はそのテーマに沿って、参加した方が交流し、記憶に残っていたような総会となるように企画を組み立てました。一つは、「修猷よかNet」と題した冊子企画。これは卒業生の皆様にインタビューを行ったり、東京で飲食店を経営している方の情報、修猷生の書いた書籍等を取りまとめたものになります。また、これを紹介するブース（DEMISE…出店と名付けました）を会場内に設置し、冊子の編集者が参加した方々と交流し、卒業生をつなぐ場としました。

DEMISEは今回物販として作成したオリジナルの日本酒を飲みながら楽しめる場所や、ふるさとブースと題した福岡市の職員をしている卒業生が福岡市の今を紹介する場所も作り、それぞれ交流を図っています。

また会場内には天猷会の同期のメンバーがお祭り感を出すために浴衣に法被で声かけを行い、学年をこえて交流が進むようにしました。利用者が約20人など少人数にとどまってしまう企画もありますが、他にも複数の企画を同時に走らせておりまして、同期の方々での交流も行いつつ、学年を越えて話をする機会も作れたのではないかと思います。

さて、今回の総会を最も特徴付けたのは、会場に設置した協賛提灯企画だろうと思います。

東京修猷会の総会は、コロナ禍を経ての会場費の高騰により、昨年は学年寄付金を入れても赤字という状況となりました。今年も当初予算では最低でも600人が集まらないと赤字という計画で、なかなか厳しいと考えておりました。そこで、卒業

生の方に企業、商店、個人等として協賛をいただけないかと考えまして、それを「星祭」のテーマと合わせて、提灯という形で協賛を出していただくことを計画しました。

当初予算では24件くらい集まれば黒字になるだろうというところでそれを目指していたのですが、皆様にご協力いただき、部活として、社内修猷生の有志でなども含み、結果として104個もの提灯を出していただきました。

同期の建築士チームがこの提灯を六光星の形で配置することを考えてくれて（下から見上げると六光星なのです）、中央に巨大な六光星が輝く会場という印象深いものになりました。館友の皆様が会場に入場した瞬間、歓声をあげていただいたことはとても嬉しく思っています。

多くの方に協賛いただいたことによつて、結果として参加者が当初目標の600名に達しなかったものの総会運営としては黒字で行うことができ、来年以降に収入の選択肢を作れたことは一つの成果と考えているところです。

仕事が繁忙だったこともあり、同期の皆様には色々頼り、迷惑をかけた準備をした1年間でした。



最後まで手伝ってくれた同期の天猷会の皆様、本当にありがとうございます。そして福岡総会も頑張りましょう。というお礼の言葉を以て、この原稿の締めくくりとしたいと思います。

## 近畿修猷会総会報告



高田 雅章

(平成6年卒)

2025年11月15日午後4時より大阪・梅田にあるホテルモントレ大阪にて50周年記念特別総会として盛大に総会が執り行われました。参加者は例年の倍近い270名以上の出席をいただき、津田純嗣同窓会会長、野本準二館長をはじめ東京、中京の修猷会からも来賓のご出席をいただきました。

記念特別総会ということで、近畿修猷会の代表も務められ、現在まで長く貢献いただいている松川雅典相談役（S40年卒）に「近畿修猷会は何故日本一楽しい同窓会なのかその誕生の歴史を紐解く」というテーマで特別講演をいただきました。近畿修猷会の発足からなぜここまで発展してきたのかを、当初

から見つめてこられた立場からお話いただきました。懐かしく思われる方も、初めて歴史に触れる方も楽しく元気になれるお話でした。

また、50周年記念式典として、音楽家、ピアニストとして活躍されている巨瀬励起さん（H8年卒）によるピアノ伴奏にのせての館歌斉唱とお祝いの演奏が会に花を添えてくれました。

来賓の皆様からも温かい祝辞を頂戴して懇親会の開始となり、松村泰夫様（S32年卒）のご発声で乾杯となりました。懇親会は、昔と今の修猷館を見事に編集した特別映像の上映で盛り上がりつつありました。田中健吾様（H8年卒）にご尽力いただきました。

記念グッズとして六光星と近畿修猷会の文字を印刷したステンレスマグカップを作製し、参加者の方々にお持ち帰りいただきましたが、ご好評いただいたと思っております。

会の中盤では、林幸治郎様（S50年卒）が代表で関西を中心に活躍されているチンドン通信社様の催しと口上をいただきました。楽しいリズムの中、会場中を練り歩いて、さらなる盛り上がりを作っていました。

関西で活動されている皆さんが、先輩後輩の垣根を越えてつながり、語り合い、大いに笑って時間は過ぎていきました。後半では、近畿修猷会の活力、楽しさの源である各クラブからの活動報告が行われました。近畿修猷会には14のクラブがあり、活発に活動をしています。今年も新たに一つのクラブが立ち上がり若手の会員にも参加しやすいクラブ活動となっています。

来年度の福岡での総会の幹事学年である九猷会の方々にアピールしていただき、最後は来年度の近畿修猷会幹事学年の七猷会への引き継ぎを行い、盛会のうちに閉会となりました。例年よりも人数も時間も内容も多く、濃い総会となったのではないのでしょうか。

今年の幹事学年として、六星会のメンバー中心で当日は運営させていただきました。50周年の節目の年には大きな喜びでした。ありがとうございます。50歳を迎える私たちが携われたことになりました。これまで、50周年のプロジェクトチームで先輩方がアイデアを出され、お力を尽くされていたからこそ、多くの人に来ていただき喜んでいただいたと思っておりますし、これまで50年つながれた歴史があったからこそだと思っております。

これからも60年、70年、いや100年先への未来を感じた機会でした。ご協力いただいた多くの先輩方、後輩の皆さん、同級生の皆さんありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願っています。



## 追悼

同窓会総会での館歌の巻頭言や後輩への応援歌伝承にご尽力いただいた伊藤康彦様（昭和17年卒）が逝去されました。「菁莪」発行にあたり、追悼の文章をお寄せいただきました。在りし日のお姿を偲び、ご冥福をお祈りいたします。

### 故伊藤康彦氏追悼文

荒 卷 敬一郎

（昭和50年卒）

「義雄の奴が生意気にバイクで来やがるから、俺あ馬に乗って修猷館に行ったつたい」とは、令和七年五月二十五日早朝、前日の同窓会総会を見届けられたかの如く逝去した、伊藤康彦さん（昭和十七年卒）の云いです。義雄とは貝島炭鉱の御曹司貝島義雄さん（昭和十九年卒）で、伊藤さんは伊藤伝右衛門のお孫さんです。又、伊藤さんと私の父は昭和十二年入学の同期生ですが、父は早生まれで体が小さかった事もあり一年遅らせて小学校に上がり、伊藤さんは一年早く進学されたそうで、本来なら二学年違った筈の二人が同級生になったのも、大らかな時代ならではかと思われれます。伊藤さんの世代は先の戦争に応

召し、伊藤さんも外地に征かれ、終戦後現在のウクライナに抑留されました。

伊藤さんは退職後、一般財団法人全国強制抑留者協会で語り部となり、後に福岡県支部会長として、福岡県護国神社にて執り行う慰霊祭にも関わっており、令和六年の慰霊祭でも実行委員長をお務めでした。



伊藤さんとは修猷館の学校行事「応援歌伝承会」で御縁を賜り、旧制中学時代からの応援歌を音源で残す為のDVD製作には、歌詞や楽譜等資料の確認から合唱録音まで御協力を頂きました。特に、毎年の同窓会総会で斉唱する館歌の巻頭言は、想い深いものがあります。これは、昭和二年卒の東野浩さんの作で、私は、東野さん、伊藤さん、結城威さん（昭和二十九年卒）お三方の巻頭言を拜聴しています。夫々に拘りがお有りです。東野さんは「黄金星旗の旗の下に」、伊藤さんは「黄金星旗の下に」、結城さんは「黄金星章の旗の下に」。末尾も、東野さんと結城さんは「西のみ空に輝ける」、伊藤さんは「西のみ空に輝ける星の徽章よ永久に」と云われます。

伊藤さんは、巻頭言のリハーサルを終えた後の控室で、ガソリン（カップ酒）を旨そうにお飲みでした。亡くなる前々日でした。御家族からのお電話で、容体が急変し入院されたことを知りました。お浄土でもお飲みでしょうか。謹んで哀悼の意を表します。

合掌

## 伊藤康彦先輩の巻頭言のご雄姿を偲んで

吉村 壮平

（平成7年卒）

令和七年の修猷館同窓会総会の翌日、我が母校の誇る長老、伊藤康彦先輩が百歳の天寿を全うされました。平成七年卒業の私たち七猷会のメンバーが幹事を務めた令和六年の同窓会総会の凜としたお姿を思い出します。

私は近年福岡を離れ、母校の会合にご無沙汰しておりました。恥ずかしながら、同窓会総会の準備にも十分に携われませんでした。そのような私ですが、同窓会会場での伊藤先輩のご接遇を仰せつかりました。聞けば、例年同窓会で巻頭言をお務めになる、九十九歳の大長老とのこと。ご高齢でもあり、万が一に備えて内科医である私にお世話役が回ってきたのだらうと思っておりました。後輩の方々とともにご来場された伊藤先輩は、しつかりとした足取りで矍鑠とされており、感嘆いたしました。出番をお待ちの間に、「ガソリンを入れておかねばな」と笑顔でカップ酒を口にされ、念入りに巻頭言の打ち合わせを行い、修猷館での学生生活のこと、木造の旧校舎のお話などと、懐かしい思い出を語ってください



さいました。その軽妙さと矜持に、わが母校の先輩らしさを感じました。

総会の冒頭、巻頭言を無事に終えられた直後、「やったぞ、ありがとう！」と興奮気味に声をかけてくださったその一言が、今も忘れられません。百年の歳月を誠実に歩まれ、母校を愛し続けた伊藤先輩の存在は、我々後輩の心に永く残り、心の灯をともしてくださることでしょう。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 「後輩達への優しくも熱い眼差し」

安西宏紀

(昭和31年卒)

去る五月二十五日に急逝された伊藤康彦先輩の御霊に追悼文を捧げます。

先輩の存在を知ったのは、十年ほど前に私が帰福した際に、たまたま修猷館同窓会総会に同期の桜十名ほどと出席し、先輩のお元氣な姿に接したときでした。

当時千百余人を超える後輩達(驚き)の出席者の中で、宴もたけなわの際に突然館歌を唱われ、並いる後輩達に激励の言葉を掛けられて、先輩の存在を充分に示されました。

余りにも熱い「母校愛精神」に圧倒され、以降私が帰省する盆休み時に、六本松の旧九大教養部跡地に出来た喫茶店でお会

いするのが常となりました。

数年前に故あって同期の鹿島君を紹介し、以降毎年三人で楽しいひと時を過ごし、昨年のお別れ時の約束として「一年後には、四月十四日に成就の満百歳のお祝いをしたい」と、お互いに「健康第一」を合言葉としました。

その後、先輩のご様子を伺う為に時折電話を入れ、最後にお元氣そうな肉声を聞いたのが確か五月総会の五日程前でした。

毎年の福岡総会での先輩のご活躍振りを神戸で伺っていたので、今年の総会では記念に花束贈星をと、上田幹事長にお願ひしていたのですが、総会直前に体調を崩され欠席となり、総会翌日に駆け足で彼岸に旅立たれました。

思い起こせば、かの有名な炭鉱主であった伊藤伝衛門直系の孫として、素晴らしい人生を送ってこられた伊藤康彦先輩に対し、私達のささやかな百歳のお祝いが叶わず、返す返すも残念無念でした。

ただ、生前に所望されていた修猷六光星入りの帽子は遥か後輩の原田さん(H9年卒)のご尽力により、御霊前に捧げ得たことで、私の荷が若干軽くなりました。

懐かしい思い出が走馬灯の様には浮かんできませんが、ここに至っては、貴兄の人生観(常にポジティブに且つ興味心を旺盛に)の下に、私達は先輩の母校愛と長寿にあやかり、夢のセンテナリアンを目指し、努力することを固くお誓い申し上げます。

合掌



## 〓支部だより〓

### 東京修猷会

東京修猷会で、最も歴史があり特徴的な行事である二木会について今年も紹介いたします。毎月第二木曜日に館友を講師に迎え開催し、今年700回を数えます。昨年、学士会館からホテルグランドヒル市ヶ谷へ会場が移り、サロン・ド・修猷も盛会に終えることができ、名実ともに二木会は市ヶ谷にて軌道に乗りました。終了後の懇親会も賑わいを増しておりますので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1月「働き方改革時代の労働法政策の展望〜日本の働き方はこれからどう変わっていくのか〜」

昭和53年卒 荒木尚志さん（東京大学大学院法学政  
治学研究科教授）

2月「修猷館が与えてくれたもの〜西新の高校生からこの国の大人へ〜」

昭和61年卒 松尾潔さん（音楽プロデューサー・作  
詞家・作曲家・作家）

3月「ユスフ大佐の『パプアニューギニアからの便り』〜日  
本戦没者遺骨収集 現地調査について〜」

昭和54年卒 萩原洋聡さん（元海上自衛隊 八戸航  
空基地隊司令・株式会社エヌ・ワイ・ケイ参事）

4月「未来の日本を食からつくる〜思考の原点は福岡にあり〜」

昭和58年卒 楠本修二郎さん（カフエ・カンパニー  
株式会社代表取締役会長・ZERO会社 代表取締  
役社長）

5月「人型ロボットの過去・現在・未来」

昭和62年卒 原田研介さん（大阪大学大学院基礎工  
学研究科教授）

6月 ※東京修猷会総会を開催

7月「世界遺産って何？/TBS『世界遺産』舞台裏」

平成9年卒 江夏治樹さん（株式会社TBSスパ  
ーカル情報・ドキュメンタリー番組 総合演出ディレ  
クター）

9月 サロン・ド・修猷 「Worldwide 修猷〜館友からつな  
がる世界〜」

※土曜午後に家族や友人も参加できる会として開催

10月「『21世紀の黒部ダム』をつくる〜20代電力系スタート  
アップ創業者の挑戦〜」

平成29年卒 松藤圭亮さん（株式会社Yanekara代表  
取締役CEO/CTO）

11月「日本再生は初等教育の刷新から〜小中一貫校志明館の  
挑戦〜」

昭和42年卒 山口秀範さん（株式会社寺子屋モデル  
代表世話役・小中一貫校『志明館』館長）

12月 ※忘年懇親会として開催

最後に、長年にわたり有限会社パルティール様に委託していただいた事務局が、昨年10月よりクリプテル株式会社様へ移管しました。郵送・発送等の宛先も変更となりますので、何卒よろしくお願ひします。

〒一五〇〇〇〇二一 東京都渋谷区東一八―一三〇一  
クリプテル株式会社

副幹事長 上和田 淳 (平成5年卒)

## 近畿修猷会 50周年

2025年近畿修猷会は設立50周年を迎えました。

昭和46年(1971年)の東京修猷会二木会で安川第五郎大先輩が、「大阪に修猷会がないのはおかしい」とおっしゃったのがきっかけで、近畿在住の諸先輩方が東奔西走され、昭和51年(1976年)9月に第一回近畿修猷会総会が開催されました。当時の経済事情や連絡手段を考えると驚異的なスピードで準備をされたと思います。その後、運営資金の確保や名簿作りにも多くの先輩方が尽力され、代々引き継いで来られたからこそ今日の近畿修猷会が存在すると強く感じています。

昭和52年に会員名簿が出来上がり、昭和55年から学年幹事制

が導入され、同期の絆が更に深まることになりました。平成元年(1989年)には会報発行が始まり、現在の春・秋新聞発刊につながっています。平成8年、クラブ活動が始動。最初は健康クラブ(現在の与華燈会)、釣りクラブ、そーつく会(現在の爽築会)の3クラブでしたが、現在は14クラブが登録されています。その活動には目を見張るものがあり、年間活動実績は累計で80回を超える勢いで、毎週どこかで「修猷の集まり」が実現しています。

平成7年の阪神淡路大震災の時は、被災地の館友の安否確認作業を海戦術で行い、その後の復興に関係者の皆様が献身的な努力をされたとのことで、これも修猷の絆の強さを物語るエピソードとして後世に残したい話です。平成22年から、自力で運営する体制に移行。事務局や幹事学年がボランティア精神を発揮して、年間スケジュール計画を立て、実行するようになりました。各学年代表との連絡を密にし、会員への情報提供、各イベントや総会の様子、クラブ活動の内容をホームページ等を通じて身近に感じて貰えるようにしました。

令和2年(2020年)から猛威を振るった新型コロナ禍の時は、ウェブ会議システムを活用して会合を続け、総会もハイブリット開催するなど斬新な対応で新時代を切り開く第一歩となりました。令和3年から組織運営をフラット化し、事務局運営を「世話人会」として当番学年と一緒に企画・運営を行う風通しの良い組織に生まれ変わりました。当番学年は卒業30年目の方々になりますが、東京や福岡の総会幹事を経験された同期

もいるので頼りになりますし、若い世代とのコミュニケーションも期待できます。

令和7年11月15日に設立50周年記念総会を開催しました。約280名の出席を得て総会・特別講演・懇親会と3時間半にわたる長丁場でしたが、先輩後輩・老若男女・同級生が旧交を温め合い大盛況となりました。これまで近畿修猷会を支えていただいた全ての皆様に感謝し、次なる100周年に向けて「守・破・離」の精神で本会の運営を担ってまいります。これからは近畿修猷会を宜しくお願い致します。

代表世話人 中原 滋（昭和54年卒）

## 中京修猷会 50周年

中京修猷会は昨年50周年の節目を迎えました。50年の歳月は一個人の人生で考えると、相当のウエイトを占めるずいぶん長いものだと実感されます。これまで多くの方々を支えられてきました。中京修猷会を創つてくださった諸先輩方、会員の皆様、同窓会本部各支部の皆様、そして母校関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

さて50年の歩みを振り返ってみますと、設立の1975年は山陽新幹線が博多まで延伸された年で、母校との縁を感じてし

まいます。翌1976年5月、第1回総会が今は懐かしい「中日パレス」で総勢77名の参加者で開催されました。その総会写真を見ますと第1回のこの総会から、既に肩を組んで館歌斉唱をされています。昨年の修猷館同窓会総会にて津田会長が、入学時の館歌の練習について興味深い話をされましたが、この写真を見て修猷館の生徒、卒業生にとって館歌は高校時代そのものであり、如何に大切なものであるかを痛感します。

当時のメンバーには初代会長で昭和2年卒の高木健太郎氏、明治45年卒の川越庸一氏、大正14年卒の牧定忠氏、昭和9年卒の中野博氏、昭和14年卒の城嶋昌孝氏など中学修猷館の錚々たるOBもおられて、脈々と続く伝統の重みを感じずにはいられません。昭和22年卒の秋山俊夫氏が「中京修猷会で先輩とお会いすると心が安まっていました。」と語っておられますが、「世代を超えて時の流れや人との繋がりを実感しながら語り合える場」として、中京修猷会の存在意義は大きいと思います。

次に我が会報「猷交」について、これなしには50年の歩みは語れません。設立より20年以上経過した1998年、総会やイベントへの参加人数は減少傾向にありました。3代目会長に就任された青木潤氏のリーダーシップの下、幹事会で解決策が議論されました。その結果、会の情報発信として会報を発行し、中京修猷会の活動を広く知ってもらおうと、それを決定。同年11月、手作り感あふれる「猷交」が創刊されました。紙面は活動報告や新規会員の紹介など、写真も入れながら毎回工夫を凝らしています。昨年9月には79号を発行、ここまで大きく育つ

たのも仲村晴朋初代編集長の使命感とご尽力の賜物です。現在では鶴田康光編集長を中心に幹事にて作成。年2回発行をベースに、会員はもちろん近隣他県の館友へもお届けし、会を支える大きな柱となっています。

イベントは初期の「忘年会」から進化して、今では年2回程度「散策イベント」も行っています。知的好奇心旺盛で食べるだけ、歩くだけでは満足しない修猷氣質を満たすため、毎回幹事会で意見交換しながら企画しています。

最後に中京修猷会の総会、忘年会と言えば「ミニコンサート」を連想される方も多いと思います。音楽には万国共通、人と人をつ結びつける大きなチカラがあります。これからも積極的にこのチカラを活用し、皆様に安らぎと楽しみを感じていただけるような会にしていきたいと思えます。

55周年、60周年に向け、皆様のご協力と積極的なご参加を何卒よろしくお願いいたします。

幹事長 阿部野 浩（昭和55年卒）

## 長崎修猷会 50周年

長崎修猷会は、第50回目の記念総会を12月13日に、「サンプリエール長崎」で開催しました。これまで長崎修猷会は、昭和

49年に第1回長崎修猷会をスタートし、コロナ禍の2年間（令和2年及び令和3年）を除き毎年開催してきました。

今回の第50回記念総会は、ご来賓の野本準二館長、上田英友常任幹事長（S55年卒）を迎えて、特別参加の大賀啓史さん（S46年卒）や令和8年度同窓会総会幹事「九猷会」の皆さんを含む総勢52名で開催しました。

鶴田修副会長（S44年卒）の開会の言葉に始まり、総会恒例の卓話は、長崎修猷会幹事で長崎大学経済学部教授の岡田裕正さん（S54年卒）が行いました。演題は、「文系的産学連携」であり、長崎の現状についての面白い考察でした。

その後、鶴田修副会長、野本館長、上田常任幹事長から挨拶と母校の近況報告、大熊稔幸幹事長（S50年卒）の経過報告が行われました。

引き続きの懇親会は、真島絹子幹事（S60年卒）と宮下武彦幹事（S60年卒）の司会進行、坂井真知子さん（S44年卒）の乾杯で始まりました。

立石修幹事（S62年卒）作成の「50周年記念のスライド」が懇談中に上映され、更に、山近史郎幹事（S50年卒）作成の「長崎修猷会の50年の歩み」のスライドに合わせて説明も行われ、皆で懐かしく50年を振り返りました。

その後、九猷会の皆さんから、令和8年度総会と記念グッズの紹介がありました。

今回は、50周年を記念して、長崎修猷会会員である山裾信子さん（S57年卒）製作のステンドグラスで作った「尾まがり

猫にゃん」を出席者全員にプレゼントしました。「長崎修猷会50周年」が記載された素晴らしい作品であり、非常に喜ばれました。また、恒例の福引抽選会も、今回は50周年記念というこ  
とで、豪華内容の抽選会となりました。

最後は、長崎修猷会最年長の西醇夫さん（S22年卒）に登壇  
願ひ、全員で館歌斉唱、及び万歳三唱、中牟田真一会長（S41  
年卒）の閉会宣言の後、参加者全員で記念撮影を行い、盛会の  
うちに閉会となりました。

長崎修猷会は、来年以降も引き続きより良い総会を目指して  
尽力していきますので、館友の皆様により多くの参加を待つて  
おります。

大熊 稔幸（昭和50年卒）

## 熊本修猷会

令和7年11月22日（土）アークホテル熊本城前にて第32回熊  
本修猷会総会が開催されました。母校より野本準二館長、同窓  
会より津田純嗣会長をご来賓に迎え、また来年度の同窓会総会  
担当学年である九猷会の6名も参加していただき、総勢22名の  
参加で執り行われました。最年長は岸川館友（S33年卒）、最  
年少は里美館友（R5年卒）でした。

総会では会長交代の申し出があり、来年度からは田畑愛さん  
が新会長として承認されました。田畑新会長は昭和61年卒と若  
く、各支部の最年少会長となりました。また、熊本修猷会とし  
ては初めての女性会長です。若さと行動力でこれからの熊本修  
猷会を盛り上げてもらえると期待しています。

野本館長からは修猷館高校の近況をお話いただきました。  
各部の活躍状況や生徒の進学状況を聞くと後輩たちの頑張り  
心ときめき、自分たちの学生時代を思い起こす機会となりました。  
津田会長からはTSMCに代表される熊本の半導体業界につい  
て、また同窓会本部の財務状況の裏話として収入源もご披露さ  
れました。

その後写真撮影となり、全員熊本修猷会のくまモン法被を着  
て撮影です。正面からはわかりませんが背中はいくまモンです（笑）  
懇親会は参加者最年長である岸川館友による乾杯の発声にて  
始まりました。

しばらくの懇談のあと、九猷会のメンバーによる来年度の同  
窓会総会の案内、グッズの販売が行われました。

その後恒例である近況報告会となり各人言いたい放題の楽し  
い時間となり、最後は九猷会の調君（応援部）の音頭で館歌と  
エールでお開きとなりました。

30年近く前は50名以上の参加があった総会も最近では30名未満  
と参加者の減少が止まりません。来年は参加者をもっと増やそ  
うと全員で誓いあつて夜の熊本の街へ消えていきました。

井上 昌治（昭和51年卒）

## 宮崎修猷会

令和6年度の年次総会および懇親会は令和7年1月25日(土)に開催されました。来賓として、修猷館高等学校を代表して井地副校長先生、同窓会本部より中本事務局長のご臨席を賜りました。また、令和6年度修猷館同窓会総会の幹事学年である「平八会」から3名のご参加をいただきました。

総会では長らく会長を務めていただいた南嶋会長が退任され、名誉会長へのご就任および池田新会長のご就任が議決されました。南嶋前会長には長年会長の重責を担っていただき、心より御礼申し上げます。また、続く懇親会では、来賓の皆様にご挨拶をいただき、現役館友達の活躍や、同窓会の近況をお聞きしました。会の中程では、「平八会」のみなさまから令和7年度同窓会総会の開催案内をしていただきました。その後も和気藹々と懇親会は進行し、館歌斉唱をもって楽しい会も閉会となりました。ただ昨年引き続き、残念ながら参加人数は少なかつたこともあり、新規会員の獲得についてご相談させていただきました。今年度は新規会員の勧誘をすすめ、総会・懇親会に多くの館友に参加していただけるように努めたいと思います。宮崎修猷会は小規模な会ですが、アットホームな雰囲気集まりです。宮崎へ転入される館友の方は、是非、宮崎修猷会へご参加ください。お待ち申し上げます。

事務長 光田 靖 (平成5年卒)

## 沖繩修猷会

第21回沖繩修猷会総会・懇親会を令和7年11月8日に那覇市にて開催いたしました。これまで通り、県内在住会員に加えて多くの県外会員の御参加をいただきました。同窓会本部からは、中本純徳事務局長(S61年卒)、修猷館高校からは、野本準二館長の御参加をいただきました。本年は、沖繩修猷会総会の直前(11月4日～6日)に、修猷館高校2年生の通算3度目となる沖繩研修旅行が実施され、無事に終了したとご紹介が野本館長よりありました。同窓会総会幹事学年の九猷会(H9年卒)からは、実行委員長の前田光代氏、副実行委員長の有松徹氏、事務局の峰雅紀氏、渉外部会の調崇史氏の御参加を頂き、会を大いに盛り上げていただきました。加えて、本年度本部総会のお礼参りとして平八会実行委員長の堀田浩子氏(H8年卒)も御参加されました。御陰様で、小人数ながら暖かい南の島で熱い館友交流を持つことができました。会の結びには、古江健太郎氏(H3年卒)と本井圭介氏(H3年卒)による演奏で、館歌三線バージョンを斉唱して館友の絆を深めました。

副会長 新藤 直人 (昭和60年卒)

## 鹿児島修猷会

令和七年二月一日（土）に令和六年度鹿児島修猷会総会・懇親会を鹿児島市の甲突川沿いのイタリアン・フレンチレストランであるマルコポーロ（観光交流センター）にて開催いたしました。同窓会役員からは津田純嗣会長と中神智文館長にお越しいただきまして、さらに令和七年度総会の幹事学年である平八会（H8年卒）からキャラバン隊の六名も参加いただき、合計二十五名にて開催いたしました。

鹿児島修猷会の福田健夫会長（令和六年三月末で会長を勇退、S28年卒）のご挨拶から始まり、津田同窓会長と中神館長から支部への激励、同窓会の近況、生徒の躍動などをお話しいただき、平八会からは同窓会総会への意気込みを熱く語っていただきました。懇親会では平八会のキャラバン隊が前売りチケットと記念グッズを熱心に販売し、後半には鹿児島修猷会の出席者全員からの近況報告、そして最後には平八会の高平良氏の音頭で館歌斉唱と写真撮影、お帰りの際には福岡からのお土産をお持ち帰りいただきました。

令和七年度の鹿児島修猷会の総会・懇親会は衛藤威臣会長（S37年卒）により令和八年二月七日（土）、さらに令和八年度は令和九年二月六日（土）に開催を予定しております。ご勤務や在学などで鹿児島にお住まいの場合にはお気軽にご連絡をお願いいたします。

三好 宣彰（昭和55年卒）

## 東北修猷会

第13回総会を2025年12月6日に昨年と同じ「蔵の庄」で行いました。

野本準二館長先生、等健次東京修猷会会長、中本純徳同窓会事務局長、九猷会（平成9年卒同窓会総会キャラバン隊）、天猷会（平成10年卒）、はやせん会（平成11年卒東京修猷会幹事学年）にご参加いただき、34名で開催いたしました。初めてご参加くださった方が20名と例年になく多く、また学生さん4名にもお越しいただき、昭和卒から令和卒まで幅広い世代が一堂に会する総会となりました。会場が手狭であったことをお詫び申し上げます。

母校から遠く離れた東北の地で、これほど多くの館友が集い交流できたことを、大変うれしく思います。東日本大震災後の修猷館東北研修旅行をきっかけに立ち上げられた東北修猷会ですが、世代を越えたつながりがこのように広がっていることを実感し、設立に尽力くださった先輩方にあらためて感謝申し上げます。

今年の開催予定は東北修猷会ホームページ、Facebookでお知らせいたします。

東北在住の方はもちろん、仙台に行ってみたい、たまたまその日は仙台近くにおるよ、というご参加も大歓迎です。

今後とも東北修猷会をどうぞよろしくお願いたします。

会長 工藤 砂織（昭和56年卒）

## 佐賀修猷会

昨年7月28日(月)に令和7年度佐賀修猷会総会が開催できました。梅雨らしきものが無い、暑いさなかの開催となりました。福岡からも野本館長、中本純徳事務局長にも参加いただき、佐賀修猷会の渡辺照男名誉教授(S33年卒)以下、十時忠秀名誉教授、内藤光三好生館副館長ら約28名に加えて九猷会の調崇史さんなど一年ぶりの総会ということで、先輩方から現役の佐賀大学生の諸君など多士済々のメンバーが34人ほど参加し、賑やかに和やかに開催することができました。やはりリアルの同窓会は、華やいでいて、楽しいひと時を味わうことができました。野本館長には、現在の修猷生の勉学に加えて、スポーツにまで大活躍だとたくましい報告をいただき、一同感動いたしました。

修猷館栄光あれと、今一度心に刻みました。  
会長 駒井 英基(昭和49年卒)



佐賀修猷会



長崎修猷会

## 東北修猷会



熊本修猷会



沖縄修猷会



鹿児島修猷会



中京修猷会



## 周年行事

### 米寿の前の同窓会



さんざん会 代表

### 入江正徳

(昭和33年卒)

私共 昭和33年3月に修猷を卒業した仲間も大半が85歳となり、2年後には米寿を迎える年齢となり、2年ぶりの同窓会を開催することとした。東京や大阪に在住する仲間は遠方であることも考慮し、九州在住者を中心に案内を出したところ、40名ほどの出席がかない、福岡市今泉の福新楼で同窓会を開催した。高校卒業後67年も経過すると男性女性とも容貌や身体に相応の年を重ねていたが、気持ちだけは若々しく、希望を持ち続けている元気な者も相当いたことは嬉しく思った。

ただ、欠席した80余名の回答の中には、気持ちは元気なもの、脚の具合が悪いために歩行に苦労しているとの近況報告が多かったのが気になる点であった。

今回の同窓会では、九州電力副社長や博多座社長を務めた声塚君が博多座在籍時代の想い出を語った後、久留米市で病院経

営をしている鬼塚君による乾杯の発声により開宴となった。また、遠隔地から参加してくれた貫君や寺畑君にも東京や関西での近況を話してもらった。出席者は、それぞれに自らの近況を語り合い、元気でいることに感謝し、喜び合うことが出来た。

### しつとう会・卒業60周年記念同窓会の報告



しつとう会クラス幹事

### 吉田朋春

(昭和40年卒)

昭和40年卒の「しつとう会」は、2025年5月27日に卒業60周年記念の同窓会を、母校の見学をメインの行事として開催しました。

奇しくも昭和百年の年に当たり、先の大戦の終戦直後に生まれ、間もなく八十路の坂にさしかかろうとする後期高齢者ですが、関東・関西は言うに及ばず、北は北海道、南は鹿児島から、63名の「光輝高齢者」が集いました。

我がしつとう会は昭和55年に設立総会を開催して以来、川村啓造会長のもと、毎年総会・懇親会を、5年毎には旅行などの

記念行事を実施してきましたが、我々も高齢となり、行く末如何にすべきかを各クラスの代表から成る幹事会で協議してきた結果、人生百年時代、まだ老け込むには早い！と、毎年の総会・懇親会は期限を設けずに続けることとし、5年毎の記念行事は今回を以て有終とすることとしましたので、最後の記念行事となりました。

15時に菁莪記念館に集合して校庭で記念の集合写真を撮影の後、同窓会担当の先生の案内で、人工芝で整備されたグラウンドや「修猷資料館」を見学しました。資料館は殆どが初めての見学でしたから、藩校の歴史を物語る数々の展示物に熱心に見入り、安川第五郎大先輩から寄贈された「五輪旗」には、東京オリンピックが三年生の秋にあったために受験勉強どころではなかった当時のことが懐かしく思い出されました。その後、同窓会館に移って先生から母校の現状について説明を伺いましたが、我々のときは9クラス500名中女子は約50名しかいませんでしたから、現在は男女大体同数で、活発な部活の中でも山岳部の女子がインターハイに出場するとの話には、隔世の感がありました。

続いて各自自由にホテルニューオータニに移動して、18時から総会・懇親会を開催。総会では川村会長の挨拶の後、東京しつとう会の由良範泰幹事長、近畿しつとう会の石黒敏央君から祝詞を頂戴しました。東京は百名以上が在籍し毎年4月と10月に昼食会を開催している、近畿は10数名の在籍だが近畿修猷会や関西福岡県人会などで集まって結束していると、夫々長く

交遊が続けている報告もありました。

懇親会では、はるばる北海道から参加してくれた伊藤迪男君の音頭で乾杯して宴会となり、中には卒業以来初めて参加したという方もあって、久し振りに顔を合わせた者同士和やかに、侃々諤々の時間があつたという間に過ぎて行きました。締めは恒例の輪になって肩を組んでの館歌斉唱でお開きとなり、夫々気の合う同士で夜の街に消えていった方もあつたようです。

卒業以来の年数が還暦に相当する60年ともなると、長くクラス幹事を仰せつかった身としては思い出がいろいろあります。一つだけ取り上げれば、平成6年に当番学年として全体の同窓会総会のお世話をしたとこのことです。川村会長が母校での実施を強く主張したため、ホテルで実施するのと違い宴会のセッティングから後片付けなども自分達でしなければならず、乗り越えなければならぬ多くのハードルがあつた中、実行委員長を務めた堤敬二郎君の見事なリーダーシップもあつて、母校の講堂で無事実現することができました。屋外で来場者の受付を担当することになった女性達が堤君を呼び出して、「雨が降つたらどうするど!?」と不安視すると、即座に「当日雨は絶対に降らん！」と根拠もなく言い切つたことで、ああ自分達で考えてやるしかないかと覚悟が定まり、当日は終了後も便所掃除が終わるまで誰一人帰る者なく、なかには東京に帰る最終便をキャンセルした方もいて、流石修猷生!! いざというときの一致団結する底力は素晴らしいものがありました。

ただ人生百年時代とはいへ、現在把握している同級生の物故



さんざん会 (昭和33年卒)



しつとう会 (昭和40年卒)

者は百名を超えて約2割ともなり、直前になって体調不良のため参加を見合わせた方もありましたので、今後は会員の健勝を祈りつつ、無理なく且つ息長く交遊を続けていきたいと思つたことでした。

## 卒業50周年を終えて

長澤 一成

(昭和50年卒)

到頭、卒業50周年を迎えることになりました。この歳になると、修猷館での生活が遙か彼方の「夢のまた夢」といった感慨を持つのは僕一人でしょうか。夭折の詩人中原中也「帰郷」の一節が、何処からともなく聞こえてきました。

これが私の故里だ

さやかに風も吹いてゐる

あ、おまへは何をしてきたのだと

吹き来る風が私に云ふ

50年の重み、感慨は各人それぞれでしょうが、多感な3年間を共に過ごした繋がりは、物故した50人の同級生と共に、今後消えることなく続いて行くことと思えます。

令和6年4月19日、10名弱の同級生が集まり、私達の卒後50周年記念事業に向けての活動が開始しました。遠方から参加する同級生の旅費や宿泊を考えると参加費を出来るだけ制限する条件の下、且つ、思い出に残るプログラムを検討するのに時間を割きました。

近年、修猷館の文化祭は毎年3月に開催されることになって

おり、外部からの校内訪問も可能となるので、正に私達が卒業した50年目に当たるその時にこれを利用して、校内見学をしながら文化祭にも参加する。更に、現在、御本殿改築修理で仮殿が建てられている太宰府天満宮。藤本壮介氏設計のその仮殿が評判で、これが令和8年本殿竣工に伴って撤去となるので、来福の同級生と連れ立って参拝できれば、この上ない思い出にもなる。太宰府天満宮参拝を母校見学とセットにすることで話は纏まって行きました。

太宰府天満宮参拝については、折良く、天満宮最高顧問の西高辻信良さんが修猷館同窓会の副会長の役にあり、同窓会役員会・学年幹事会新年会の席上、直接拝眉の上御願いし、参拝と案内受入れの快諾を戴いた次第でした。

愈々、懇親会当日の3月15日を迎え、会場「アークホテルロイヤル福岡天神」には117名の同級生が集まりました。五輪会会員の活躍の一端を知ること、私達の喜び、活力ともなるので、その業績に対し平成27年紫綬褒章を授与された九州大学名誉教授、九州大学高等研究院特別主幹教授佐々木裕之君に講演を依頼しました。彼が九大退官後に始めた三毛猫の毛色表現に関わる遺伝子レベルでのユニークな研究論文が「Current Biology」誌に発表され、NHKは固より、BBCやNew York Post誌などにも取り上げられ、その世界では、大変注目を浴びる研究成果となっています。

又、もう一人、五輪会になくはならない人、私達が幹事学年を務めた同窓会総会でも一座を率いて参加して座を盛り上げ

てくれた「チンドン通信社」の林幸治郎君が、関西から弾丸参加して、私達のために「筑前今様、黒田節」を舞ってくれました。その後、時が経つのも忘れ、会場のあちらこちらで驚きの声や歓声上がる一時を過ごしました。

さて、翌日は母校訪問と太宰府天満宮参拝です。まずは、平成28年にリニューアルされた修猷資料館へ。渡辺元総括教頭の御案内のもと、資料館を見学しました。金子堅太郎、広田弘毅、緒方竹虎等の書、児玉善次郎、中村研一、吉田博等の絵画が飾られた第1展示室や藩校時代から現在に至る歴史を回廊に沿って展示した第2展示室を視察しました。内容は充実しており『修猷山脈』を感じさせる展示となりました。

その後、文化祭に突入。集団で来訪した父母等より更に高齢世代の集団訪問は、現役の目にはどう映ったことでしょう。見学を終え、一路バスで太宰府へ向かいました。

太宰府の社務所で、西高辻信宏第40代宮司（信良先輩御息）から御挨拶を受けました。仮殿に昇殿の上、健康・長寿を祈念し御祈禱をして戴きました。続いて、124年ぶりの大改修が行われている現場を竹中工務店の方の御案内で見学しました。檜皮の葺替へ現場を間近で見ると、貴重な体験でした。

こうして、卒業50周年記念同窓会は無事終了しました。連絡は生成、隔絶は死滅。様々な機会を使って、五輪会の交わりを続けて行きたいと考えています。

## 「悟空会」還暦の集い



堀内 恭彦  
(昭和59年卒)

令和7年10月4日、昭和59年卒・悟空会の還暦の集いが開催されました。

当日は、まず、14時から、希望者による母校見学を行い、学校側のご厚意により、新谷勉先生（S56年卒）、徳満龍太郎先生（H14年卒）にご案内いただきました。

あいにくの大雨でしたが、教室棟や図書館、記念館、講堂、人工芝の立派なグラウンドなど当時から大きく変化した校舎に驚くとともに、かつて学び舎として過ごした場所を丁寧に説明いただき、参加者一同、当時の記憶が鮮明によみがえり、今日の修猷館が積み重ねてきた歩みに深く感銘を受けました。

先生方から伺った学校の近況や生徒たちの活躍ぶりには、母校の伝統が今も力強く息づいていることを感じ、感謝と誇りの思いが自然と湧き上がりました。

見学後、会場を福岡市内のホテルに移し、「還暦の集い」を開催しました。

亡き友への追悼の気持ちを胸に、参加者全員で今ここに集う

ことの貴さを分かち合う時間となりました。久しぶりの再会に笑顔があふれ、学生時代の思い出話や部活動の記憶、現在の仕事や家族の話題などが飛び交い、会場には終始温かな空気が流れました。若かりし頃の懐かしの写真をまとめたスライドショーも披露され、青春の日々が鮮やかに蘇るひとときとなりました。最後は、館歌を皆で大きな声で歌いあげました。

引き続き、二次会は大カラオケ大会。

懐かしい歌の披露や意外な人がマイクを握って熱唱するなど、大盛り上がり楽しい時間となりました。

今回の母校見学と還暦の集いには120名超の同級生が参加し、同期の結束と修猷館への思いを改めて深める、かけがえない一日となりました。

ご協力いただいた新谷勉先生、徳満龍太郎先生に改めて御礼申し上げますとともに、ご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

また次の機会も皆で元気に集えましょう！



## 部活同窓会

### — 修猷剣友会 —

### 剣道部創設130周年記念行事

令和7年10月12日、修猷館剣道部創設130周年記念行事（午前）に修猷館剣道場にて記念剣道大会、午後には八仙閣本店にて記念式典及び記念祝賀会）が行われた。記念行事の実行委員長は大和竹史先輩（S37卒）。

### 記念剣道大会

開会式では、野本準二館長から剣道場の扁額「心外無刀」（緒方竹虎先輩（M39卒）揮毫）について格調高いご挨拶を頂いた。審判長は三木章敬先輩（S38卒）、司会・進行は一色祥先輩（H9卒）、会場設営、審判手配等は大庭幸雄先輩（S56卒）、党智先輩（H6卒）、二牟禮弘樹先輩（H11卒）が中心となって行った。

招待校は福岡、筑紫丘、明



記念剣道大会（男子決勝・代表戦）

善、育徳館、武蔵台の5校。筑紫丘顧問は草場太郎先輩（H23卒）、武蔵台顧問は宗和希先輩（H21卒）と、剣道部OB。男女共に3校リーグ戦を全勝で決勝進出。まずは女子決勝の明善戦。先鋒の吉田妃水子君（1年）、次鋒の帆足百合子君（2年）が二本勝で快勝。中堅の一本負の後、副将の陶山遥君（2年）が引分で優勝を決めた。男子決勝は福高戦。先鋒引分、次鋒一本負、中堅一本負の絶体絶命の中、副将の丸目晴剛君（2年）が二本勝、大将の小柳英志郎君（2年）が一本勝で、代表選。延長の末、小柳君が見事に面を決めて大逆転。男女共に優勝。

### 記念式典・記念祝賀会

歴代師範の富石亮先生、嵩末秀一先生、久保山崇之先生、OB・OG118名、学生16名の合計137名が参集。尚、白木英治先生はご欠席。司会は服巻誠先輩（S58卒）、会計は石井俊介先輩（H7卒）。

記念式典は物故者黙祷、修猷剣友会会長の平井直先輩（S50卒）、剣道部師範の鈴木颯汰先輩（H24卒）の挨拶と続き、歴代師範の3名の先生方に大和先輩より感謝状を贈呈し、先生方からそれぞれご挨拶を頂いた。

祝賀会は筆者の開会の言葉の後、最年長の陣川桂三先輩（S33卒）の乾杯で祝宴。祝宴中、宮崎誠治先輩（H4卒）、宗先輩、中野宏紀先輩（R5卒）が当時の思い出を語り、ご欠席の白木先生をNHKが特集した「教師かく戦えり」（昭和56年

放送)の映像を流した。締めは、主将の小柳君の指揮による館歌とエール、大庭先輩の閉会の言葉、帆足又十郎先輩(S42卒)の万歳三唱でお開きとなった。

紙面の制約から一部の方しか紹介できませんでしたが、今般の記念行事に際して、ご協力頂いた沢山の方々に衷心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。

修猷剣友会幹事長 池上 浩司(昭和58年卒)

## 投稿

### 修猷館剣道に育てられ、生かされた我が人生

修猷館の剣道場には緒方竹虎先輩の「心外無刀」の扁額がある。山岡鉄舟の「心外二刀ナキヲ無刀ト云フ。無刀トハ無心ト云フガ如シ。無心トハ心ヲトドメヌト云フ事ナリ。必ズ疑ヲ容レズ。刻苦修行アルベシ。」という「唯一心」である。今なお、鈴木颯汰師範の指導をいただき、剣友会会長平井直(S50卒)のもとに、大和竹史(S37卒)、帆足又十郎(S47卒)など、錚々たる先輩諸氏のもとに現役生が刻苦修行している。

私は、ひ弱な運動神経のない15歳の中学生だった。中学生の

時の模擬試験の時に、たまたま見た剣道部の高校生(後の先輩)の姿にあこがれて修猷館に来た。そして、入学後すぐに剣道部に入れてもらった。「キミの腕とこの竹刀とどちらが太いと感じるか?」と問われて、返事に窮したのを覚えている。その時から数えて76年になるのである。私の時代の剣道部は、小山朝英(S13卒・私たちを卒業させたのち拓殖大学教授)師範のもと数人の先輩(武道専門学校出身の西島弥寿夫(S7年卒)・佐伯太郎(S8年卒)の老先生他)が道場にみえていた。ほとんどが、戦地帰りの中学修猷館時代に稽古された方ばかりだった。私は、みんなに追いつきたいと日夜、剣道のことばかりを考えていた。

現在の高等学校生には到底考えられない凄まじい稽古であった。数人が試合の外にいて、一人の勝負がついたら直ぐ前にいる者が繋がってくる。勝負と別にして30分〜40分位一人で立ち向かうのである。初めは意気盛んであるが、二十数分もすると息があがってくる。先輩が「それまで!」というまで止められ稽古させられる。また、ある時は、長柄の竹刀の先端にタンプをつけて、「今日は槍だ!」と言われて、突きに、払いにと稽古されたり、薙刀の稽古もあつた。銃剣を持つてこれらと稽古もした。銃剣との稽古は剣道とは違って、銃剣の柄も武器なのである。護国神社の試合には、銃剣との試合もあつたため、必死に稽古をした。ある時には、米兵のベースに招かれて、剣道を見せた。米兵が興味を示して、実際に稽古したいと

言い出した。もちろん、私たちが相手をした。米兵は、私たちが持つて行った防具をTシャツの上からつけて繋がってくるのである。全くの素人であり、小手も面も胴もお構いなしで打ってくる。圧倒的に大きな体格の米兵である。体のどこを打たれても大変である。体に当てられないように払い、かわし、時には打ち込みをする。全くの真剣勝負であった。PTA会長で剣道部後援会長であった中山弘道先輩（T7卒・故中山陽城君《同期生》の父君）は、一刀流皆伝で、十段を辞退されたといわれているほどの名人であったが、その稽古たるや、稽古初めから終わりまで（約2時間）続いた。「一本！」と叫んでも、「今の打ちで斬れたと思うか」と言われて、お構いなしの稽古であった。その威圧感稽古が終わるとぐったりするほどであった。

こうした修猷館での稽古は、全くの旧式の剣道稽古であろう。しかし、今になって考えれば、剣道の技術よりも、もっともつと人間的な強さを与えていただいたのであろう。同期生の3年生の時は坂牧大陸君（故人）、深見雅彦君（故人）と佐藤守君（自衛隊・空将）と私の4人になっていた。このような稽古の毎日であったが、この4人に前田健（S38年卒）・北二郎（S38年卒）・横山賢一（S39年卒）と共に、西日本高校剣道大会（現玉竜旗剣道大会）で、3位に入った。新聞情報や諸大会での成績から優勝をするつもりであったため、3位では「彼の群小」もあったが「輿望は重し」でもあった。九州大会も優勝を逃した。12月まで稽古は休まなかった。東京から拓殖大学の剣道部が来て、試合をすることになっていたのである。

私は、試験勉強はせずに、福岡学芸大学（当時の九州では、福大に次いで強いチームだったし、4年先輩の荒木隆先輩がいた）に進んで、教職の道に進んだ。修猷館での刻苦修行の覚悟は大学でも続いた。おかげで、大学では全国大会や東西対抗や選手権大会など多くに出場することができた。大学3年生の時に5段を頂いていた。大学を卒業するや、国体選手として福岡県代表の先鋒で3位をとり、その後も様々な大会に県代表として参戦した。

その後は、公立中学校、福岡教育大学付属中学教諭に進み、「教育評価」の実践研究に9年間打ち込んだが、三十数歳からの教育心理学や教育哲学や教育思潮の勉強はきつかった。さらに、教育行政13年間の内では、裁判にもかかわり、学校現場の校長や教諭のこと児童生徒のことを第一にした。それだけに、行政機関と議会には、大いに苦しまされた。そんな中でも、同期の高山博光君（市会議員）・権藤宣威君（故人・西日本新聞社）・入江正徳君（現さんざん会幹事長）には助けられた。国旗・国歌の渦中に校長もした。退職後は、「教育評価」の講座を特設した福岡大学の教授として10年間を過ごした。とはいえ、修猷館時代のあの激しい稽古のお陰で、86歳の様々な人生を乗り切れていると思う。

修猷館の剣道は、「心外無刀」の「心」を私に育ててくれ、叱咤し、励まし、何事も諦めさせなかったのである。

陣川 桂三（昭和33年卒）

## — 修猷館野球部OB会 — 野球部創部130周年にあたって

2025年、野球部は創部130周年を迎えました。創部130年以上の高校野球部は全国でわずか23校と誇るべきことであり、OB会役員で記念事業に取り組みました。

記念祝賀会には全国から約1000名のOB・OGが集い、球友との再会や思い出の映像を通じてこれまでの道のりを確認し旧交を温めました。現役部員も来場。「われらが使命を果たしてん」、中道主将の甲子園を目指す力強い決意表明もあり、野球部の伝統と誇りを共有しました。

記念試合は、長い間切磋琢磨してきた熊本県立済々黌高校との第34回定期戦を兼ねて実施。両校とも秋季県大会ベスト4の対戦は伝統ある強豪校同士の緊張感に満ちた好ゲームとなり、これまでの交流の意義を確認し両校の誇りと伝統を称えました。

さらに記念寄付にはOB・OG約170名から約400万円のご厚志をいただき、記念祝賀会で波多江監督（H2年卒）に目録を贈呈。現役の練習環境整備に役立てていただきました。

2024年秋の県大会準決勝進出は夢の甲子園を目標へと変える活躍でしたが、多くの部員が難関



大学に現役合格を果たすなど、「文に武に」を実践しています。文武両道に勤しみ努める後輩たちをさらに支援するため、「1点を積み上げる！」をテーマにクラウドファンディングを実施。過去、甲子園まであと一歩と迫りながら越えられなかった「1点の壁」を越え悲願実現を目指す支援を募ったところ、野球部以外の同窓生や一般からも約100万円の協力を得られ、更なる支援ができました。初の取り組みで試行錯誤となりましたが一定の成果を上げ、今後の支援の手法として理解を得られたものと思います。

130年の歴史は、幾多の困難を乗り越えながらも野球を通じて培われた絆によって積み重ねられたものです。この道のりを記念誌にまとめました。後輩へのメッセージ、プロで活躍した先輩、歴代監督のエピソードなど読み応えのあるもので、後世につなぐ一冊となるでしょう。

野球部で過ごした時間はOB・OGにとってかけがえのない財産です。OB会はその絆をつなぎ、修猷館野球部を応援するコミュニティです。これからも球友の懇親を深め、現役の支援を続けて参ります。

会長 下川 達史（昭和56年卒）



## — 修猷館柔道倶楽部 —

### 令和7年の活動（創部130周年）

- 1月2日午後2時から（毎年同じ日時） 柔道場にて初稽古を行い、約140名が集まりました。
- 1月24日 元顧問の古賀元博先生が、ご家族・ご親族に見守られながら旅立たれました。人並外れた気力と体力で病氣と闘い続け、全国のたくさんの先輩・同期・後輩・教え子の笑顔に囲まれていた古賀先生でした。修猷館柔道倶楽部一同、心からご冥福をお祈りいたします。
- 3月31日 21年間、柔道部を支えて頂いた藤原先生が栄転され若い隈本先生をお迎えし新体制がスタートしました。
- 5月2日 パリ2024パラリンピックで金メダルを獲得した選手のみが次のオリンピックまで着用できるゴールドゼッケン（栄光の証）の柔道着を、佐藤会長（S50年卒）を通じて学校へ寄贈しました。当日は、野本館長・溝田副校長・石田教頭・稲田参事兼事務長・柔道部顧問隈本先生・前柔道部顧問藤原先生に立ち会って頂きました。ゴールドゼッケンの柔道着は正面玄関ホールの展示ケースに飾られています。
- 5月3日 令和7年度の新入部員歓迎会を開催。1年生は男子9名・女子6名、2年生は転部で2名入部し、総勢41名で稽古に励んでいます。
- 7月13日 総勢107名による金鷲旗激励会を開催。柔道部

の催しでは締めめの館歌斉唱の前に、OB・OGが現役生徒に激励を送る伝統が続いており、今回は、高宮先輩（S36年卒）、前田先輩（H19年卒）、吉武先輩（H22年卒）から熱い激励が送られました。

- 7月24日午後5時から（毎年同じ日時） 利花苑大名本店にて総会を開催しました。現役生徒も参加し、3年生が引退報告と受験に向けた意気込みを語る場にもなっています。
- 12月30日（毎年同じ日） 年末恒例の餅つき会を開催。幹事長 田中 泰弘（平成12年卒）

## — 修猷館高校バレー部OB・OG会 —

### 修猷・福高定期戦のご報告と

### バレー部100周年のお知らせ

2025年8月16日に9年ぶりに修猷・福高定期戦が開催されました。今回は福中・福高バレー部創部100周年と併せての開催でした。両校の現役生約80人、OB・OG約140人が福高体育館に集結し、OB・OG戦、現役対抗戦を行いました。定期戦後は修猷バレー部OB・OG会は、近隣レストランで総勢64人の懇親会を行い、会の締めには久々に館歌を斉唱して、創部100周年記念事業に向けて団結を誓いました。

2027年に修猷バレー部は創部100周年を迎えます。2023年より実行委員会を立ち上げ準備を開始しています。

2027年4月を目途に郵便・メール・ラインなどで詳細な案内状をお届けします。OB・OG会の皆さま、全国から多数参加いただき、対抗戦と一緒に汗を流し、記念式典でバレー部の発展を祈念して乾杯しましょう。

【記念事業 概要】 令和9年8月22日(日)

① 8時～ 修猷・福高定期戦(OB・

OG戦、現役戦) 修猷館高校体育館

② 18時～ 記念式典 於 アークホテル

ロイヤル福岡天神

【特別会費のお願い】

創部100周年記念事業および現役支援に係る10年に一度の特別会費のお願いです。1口3,000円以上です。以下に口座番号を記載しますので、ご協力をお願いいたします。

○ゆうちょ銀行 店番七四八

普通0142285

修猷館高校バレーボール部OB・OG会

○西日本シティ銀行 天神北支店

普通0456880

修猷館バレーボール部OB会会計 高田

一哉

100周年記念事業

会長 大賀 啓史(昭和46年卒)

実行委員長 佐藤 亮(昭和51年卒)



記念行事

## ― 修猷館ラグビー倶楽部 ― 創部100周年の報告と御礼

1 1925年(大正14年) 創部

我が修猷館高校ラグビー部は令和7年に創部100周年を迎えました。

修猷館の質実剛健な校風に適したスポーツとして東邦電力(現在の九州電力・西日本鉄道)社員の紹介を通じてラグビーが体育の授業に導入された後、1925年(大正14年)にラグビー部が創部されました。

その時のことについて「修猷館ラグビー70年史」には以下のように記されています。「大正13年、福岡中学に部が生まれたことや、横山(通夫氏)さん達の活動などを通じて、体育教官長三熊先生は、本館の運動部精神に共通する点が多い、と共鳴するところがあった。このことが大正14年1月16日の2・3年生を対象に開かれた、白田六郎氏による『ラグビー講演会』となったのである。これがどの様な風の吹きまわしか、修猷のワルソウ連中(原文ママ)が大感激。ついに新年度早々正式に部として産声をあげたのである」

以来、一年先にラグビー部が創部していた宿敵かつ盟友の福岡中(現福岡高校)などとともに切磋琢磨しながらラグビーの魅力を発信し、普及・育成・強化に努めてきました。戦前戦後を通じてラグビーの雄県福岡の代表として国体優勝や全国大会出場を果たすなど幾多の優秀な実績を挙げ続けています。

近年においても全国的な私立校優位の趨勢の中、数少ない

「公立伝統校の雄」としての周囲の高い評価も維持し続け、令和4年春には久しぶりの全国選抜大会への出場を果たしました。

この間数多の日本を代表する優秀なラグーメン（最近ではラガーウィメンも）を送り出しており、近年では下川甲嗣君（H29卒、早稲田大学→サントリーサンゴリアス）が卒部生10人目の日本代表に選出され、先のワールドカップフランス大会においても活躍しました。

現在も洗練されたチームプレーとラグービスピリットは連続と受け継がれており、著名な「イートン校」など英豪の名門パブリックスクールとのラグビーを中心とした教育文化交流プログラムも開始されています。

故・守田基定先生、淵本武揚先生が基盤を築かれ、その後、岡本圭吾先生（S56卒、元館長）がさらに強化し、現在も渡邊康弘先生（S57卒）、真鍋健治先生（H8卒）、徳満龍太郎先生（H14卒）が、厳しくも愛情溢れる指導で現役を鍛え上げています。

## 2 100周年のテーマは「弥栄（いやさか）」

令和7年4月26日、本校グラウンド及び講堂において、創部100周年の記念試合・式典・祝賀会を開催しました。

テーマは「弥栄（いやさか）」、より一層栄えること。「修猷ラグビー、弥栄、弥栄、弥栄！」の掛け声は部の伝統です。

ライバル福岡高校との記念試合は現役・OB戦ともに勝利を収め100周年に華を添えることができました。

また、特別ゲストとして元ラグビー日本代表主将の廣瀬俊

朗氏をお迎えし、現役へ熱いメッセージをいただきました。

式典・祝賀会では、服部誠太郎福岡県知事、森重隆日本ラグビーフットボール協会名誉会長、西高辻信良同窓会副会長、野本準二館

長はじめ多くの来賓の皆様にご臨席を賜りました。修猷館ラグビー倶楽部（OB・OG会）の武藤英治会長（S45卒）から100周年を迎えることができた感謝と喜びが伝えられました。

### 3 高校ラグビーの聖地・花園でイベント

さらに、100周年事業の一環として、9月13日、東大阪の花園ラグビー場へ遠征し、現役は大阪の伝統校である府立北野高校、天王寺高校と交流試合を行いました。試合はともに修猷館が快勝。アフターマッチファンクションでは3校の生徒たちが和やかに交流を深めました。

OB戦は全国の公立高校ラグビー部卒業生らによるラグビーフェスティバルとして開催し、計28校から約280名（うち修猷館64名）が参加して、65歳以上のグラウンドシニアなどの年代に分かれて試合を楽しみました。

### 4 現役は決勝戦で敗退するも健闘に拍手

そして、創部100周年の節目に悲願の「花園」出場を目指して臨んだ秋の全国高校ラグビー大会福岡県予選。

出場枠が2に増えた記念大会で11月15日に第2地区決勝戦が行われましたが、修猷館は筑紫に5-46と完敗。残念ながら、



廣瀬俊朗氏の講演

昭和53年度の出場以来48大会ぶりの全国大会出場は果たせませんでした。

しかし、伝統の青白ジャージに身を包み最後まで戦い抜いた現役の奮闘には心から拍手を送りたいと思います。

## 5 次の100年に向けて新たなスタート

100周年記念事業にご協力・ご尽力いただいたOB・OG、学校関係者、御来賓、ご協賛いただいた関係各位の皆様にご厚く御礼を申し上げます。

ラグビーというスポーツは、「世の為人の為」に尽くす力、最高の仲間とともに「考える」力、リーダーシップやフォロワーシップを体験しながら「組織を動かす」力を養うことができます。修猷館ラグビー部は、自ら考え、挑みながら、成長するクラブ文化を持っており、これは卒業後においても我々の人生において大きな糧となっています。

これからも「弥栄」の掛け声のもと、次の100年に向けて、修猷館ラグビーファミリーが、より強く、広く、つながっていくことを心から願っています。

100周年記念事業実行委員長

堀内 恭彦（昭和59年卒）



## エディ・ジョーンズ氏がラグビー部を指導！

6月2日、ラグビー日本代表監督であるエディ・ジョーンズ氏が来校し、ラグビー部員への特別指導をしていただきました。地元テレビ局の企画でしたが、世界のトップレベルで活躍する指導者から直接アドバイスを受ける貴重な機会となり、生徒たちにとって大きな学びを得る時間となりました。

トレーニングは20分ほどでしたが、日本代表の合宿で行っているものとはほぼ同じで、素早く判断して、全力で、たくさん走ることが要求されるハードなものでした。

特に印象深かったのは、練習のテンポと強度に対する徹底です。短い時間でも集中を切らさず、常に試合を想定したスピードで動くよう求められ、生徒たちは息を切らしながらも必死に食らいついていました。プレーの合間には選手一人ひとりに声をかけ、良い点はすぐに褒め、改善点は明確に示すなど、世界的指導者らしいメリハリあるコーチングでした。

生徒からの「どうしたらもっと上達できますか?」との質問に、エディ氏は、「ハードワーク。ハードな練習をすること」、「高い目標を掲げて、そこに向けて努力を続けること」、「意識を変えただけで、改善できる、大事なことはその意識のまま、トレーニングを重ねていくこと」と答えていました。



エディ氏は、修猷館高校らしい真摯な取り組み姿勢を高く評価され、「その努力を試合で発揮するには、普段の練習の質をもう一段上げる必要がある」との助言もいただきました。

— 修猷館水泳部OB・OG会「星泳会」 —  
**水泳部創部100周年記念事業報告**

水泳部は大正14年に創部され100周年を迎える事となりました。3代にわたるプールにて多数の部員たちが同じ水の中で築いた貴重な絆と輝かしい歴史を祝い、令和7年6月に「創部100周年記念行事」をOB・OG及び現役多数参加し盛大に開催致しました。左記の通り記念行事概要をご報告いたします。

■記念式典・現役交流・祝賀会等

①開催日時 令和7年6月14日（土）

②開催場所と内容

式典とスライド	菁莪堂	約80名	挨拶・スライドにて100年史紹介
記念講演	菁莪堂	約80名	スポーツドクター・金岡氏（56年卒）
物故者追悼式	プール	約80名	
現役へ記念品贈呈	プール	約80名	テント2台・特製巾着・金一封
葉室記念碑修復	プール		葉室選手記念碑の修復披露
交流リレー	プール	約80名	現役・OB交流リレー
祝賀会	ホテル	約60名	市内ホテルにて顧問・OB・OG

★ 右記の通り当日は多数のOB・OGと現役部員が参加し盛大に開催致しました。当日は午前中は雨模様にてプールにて

の開催が心配されたところ、昼から天候も回復し交流リレー等も楽しく行われ、RKBテレビ局の取材を受ける事もできました。夜の祝賀会にては久しぶりに再会したメンバーが祝杯を傾けながら現役時代の思い出話を語り、最後は全員で館歌と彼の群小を斉唱し2次会へと移行しました。

■創部100周年記念「水泳部史」の発行

創部100周年を記念し、3代のプールと共に歩んだ数々の歴史や思い出を編纂し令和7年11月に発行いたしました。



以上よろしくお願いいたします。

会長 西村 正美（昭和43年卒）  
 事務局長 重岡 昌伸（昭和53年卒）

## ― 修猷館高等学校バスケットボール部同窓会 ― 主な活動と創部100周年のお知らせ

当部は1927年（昭和2年）に創部され、2027年（令和9年）に創部100周年を迎えます。まずは当部同窓会のような活動についてご紹介します。

年始は元日正午から同窓生が当校体育館に集まり、現役生との親睦試合を行っています。毎年、元日にもかかわらず多くの同窓生が参加し旧交を温めています。

8月には福岡高校との定期戦が開催されます。OB・OG戦と現役戦を行い、試合後は両校の同窓生で懇親会を開催しています。2025年は当校で実施予定でしたが記録的大雨のため中止となりました。しかし、10月26日に男子の現役戦を開催することができました。私も観戦しましたが、両校とも全力を尽くしており、緊張感溢れる良いゲームでした。

10月には福岡市内8校のOB会が集う壮年大会（参加資格35歳以上）に参加し、かつてのライバルたちと学校を越えた交流



10月26日に開催された現役男子による福高定期戦の様子

を深めています。2025年は福岡高校で開催され、当校も9名で試合に臨みました。

以上が主な活動になりますが、毎回参加される方、久しぶりに顔を見せてくださる方、バスケットはしないけれど観戦を楽しみに来られる方など、活動への関わり方は人それぞれです。各活動はSNSやメール等でご案内していますので是非ご参加ください。

さて、冒頭で述べたとおり、当部は2027年に創部100周年を迎えますが、現在創部100周年記念事業実行委員会を立ち上げ、平成7年卒の古賀裕介実行委員長のもとで準備を進めております。同窓会のつながりをさらに充実させ、幅広い世代の方に記念事業に参加していただきたいと考えております。同窓生の皆様の事業への参加（記念式典を2027年9月に予定）とご協力をお願い申し上げます。

会長 浅田 雅彦（昭和56年卒）

## ― 修猷館硬式庭球部OB会 ― 活動報告

修猷館高校硬式庭球部は第2次世界大戦終戦翌年、昭和21年の創部。当初は高校にテニスコートがなく、九州大学工学部の特ニスコートを借用しての部活動だったそうです。OB会の活動開始時期は不明ですが、当初から卒業生が後輩の指導に当

たっていたと思われず。

現在のOB会は年に一回の開催で、昼の部と夜の部の二本立て。現役生徒への指導や金銭的支援を行っています。開催日は福岡在住のOBが少ないため、帰省時期に合わせて実施。昼の部は修猷館のテニスコートを利用し、OBと現役生徒が一緒に親睦テニスを楽しんでいます。2023年度まではお盆に実施していましたが、熱中症アラートが発出されるなど命の危険があるため、2024年度からはお正月に変更。2025年1月のOB会はお正月に行う初めてのOB会でしたが、OB・OG31名、現役4名が集結。関東・関西在住のOBも多数参加し、盛大に開催できました。OBの最高齢はなんと88歳。コート内を縦横無尽に動き回る姿は、あとに続く人たちの憧れです。

夜の部は西新界隈で懇親会。OB20名、現役生徒4名が参加しました。OBからは現況報告とともに、現役生徒へのアドバイスなどがあり、和気あいあいとした時間を過ごすことができました。

テニスはいくつになっても楽しめるスポーツです。全国レベルの大会は、5歳刻みで試合が組まれ、最高齢クラスは85歳以上。いずれ90歳以上のクラスができるのでは、と思います。我々OBはいつまでもテニスを続け、OB会に参加し、若々しい人生を送りたいと考えています。

会長 湧川 朝宏（昭和47年卒）

## — 修猷館山岳部OB会 (Shuyu Alpine Club) —

・発足：昭和10年、修猷館中学山岳跋涉会として。

・OBの顕著な実績（事務局で把握しているもののみ）

明治45年卒 日高信六郎 モンブラン日本人初の登頂を始め、第1次南極観測隊参加、K2登頂、国体スキー3年連続出場、ヒマルチュリ初登頂、3580座登頂、マッターホルン登頂、屋久島にクライミングルート20本開拓、第33次南極越冬隊参加、マッキンレー冬季単独登頂、フォーレイカー冬季単独初登頂、ハンター冬季単独初登に9季連続挑戦、植村直己冒険賞、等。

・現役部員の主な実績

2023年 第67回インターハイ（北海道） 男子準優勝

2024年 第68回インターハイ（福岡） 女子4位入賞

2025年 第69回インターハイ（広島） 女子6位入賞

・OB会の恒例行事（部員に限らず家族や関係者出席可）

夏・BBQ大会（市内、近年は事務局長が自宅の庭を提供）

秋・紅葉狩りと秋の山（九重登山とS46卒OB提供の別荘）

冬・忘年会又は新年会

・部員への指導目標

1. 宇宙一高貴なスポーツ、崇高な精神を持って行動する事。
2. 山を楽しむ、自他を問わず命を尊重し、必ず生還する事。
3. 高校山岳部の内に、山行の基礎を修得する事。
4. 山行活動を通して体力と精神力を鍛える事。
5. 周囲の人々への心遣いと感謝を忘れない事。

会長 横田 隆（昭和37年卒）

## — 修猷館高校サッカー部OBORG会 —

修猷館高校サッカー部OBORG会は、サッカー部創部50周年の平成29年1月3日、創部期のメンバーを中心に設立され、今年で設立9年目を迎えます。設立前より名簿の整備を進め、会の構成員（名簿登録者）は800名を超え、その内700名程がメールで繋がっています。執行部は、会長以下19名の役員により運営を行い、関東・関西にも3名ずつ地区担当役員を配しています。会の目的は、①会員相互の親睦、②母校サッカー部の発展への寄与としており、この目的に沿って活動しています。

具体的には、①として、OBORG会総会・懇親会、関東・関西の懇親会を開催し、毎年1月3日、恒例のOB戦には100名近くが参加し交流と親睦を深めています。特に、念願であった関西での懇親会は、初めての開催となります。②については、県リーグ、インターハイ、高校選手権等への保護者会と連携した応援、スポーツ飲料等の差し入れ、練習器具・備品の提供、ユニフォーム制作の補助、高校選手権パンフレットの母校応援広告への協賛、3月卒部式への出席・記念品贈呈を行い、毎年1月のOB戦時と、夏季合宿・遠征時に、会員の年会費から支援金を贈呈しています。また、公式戦組合せと全試合結果の報告、OBORG会のイベント、年会費案内等のメールを全会員へ頻繁に配信し、メールアドレスの整備を励行しています。

今後この2つの活動に力を入れ、会員の交流・親睦・満足度向上、現役への支援を継続・拡大していきます。

幹事長 成澤 芳幸（昭和49年卒）

## — 墨猷会（修猷館書道部OB会） —

墨猷会は書道部創部（ずいぶん昔、おそらく昭和30年代）のころからあったようですが、なんとなく集まりらしくなったのは今から19年前です。当時、書道部初代顧問の故荒牧香陽先生の遺作展を福岡市美術館で開催したのがきっかけです。その企画運営をしながら「やつぱり書道はいいもんだ」と携わった者たちがみんな思いました。その時の感激が今の墨猷会の活動の原動力になっています。

香陽先生は言われました。「あなた方は卒業してそれぞれの道を歩んでいつてバラバラになるけれど、書という見えない細いパイプがあなた方を繋いでいる。」このお言葉は全く本当でして、私たちは卒業してずっと筆を握ってきた者も、卒業して一度も墨を擦ったことがない者もみんなこのパイプで繋がっています。

そんな繋がりが、平成18年修猷館同窓会での揮毫実演となつて花開きました。二代目顧問の故肥塚雲涯先生時代の面々が企画して、荒牧香陽先生時代の中高年を引っ張り出したのです。普通の書なら結構な字を書くOBも、立て掛けた大きな紙に超大筆で揮毫するのは未経験でした。しかし、それを私たちはやりとげた。それもいい出来栄えで。墨猷会ここにありでした。

揮毫実演の機会はないかもしれませんが、墨猷会OBが経営する中洲のスナックに集まっては、ワイワイ楽しくやります。ときどきちょっと書の話をしなから。

まだ、墨猷会に顔を出されていないOBのみなさん！ぜひ、ご参加ください。旧・現顧問の先生方を囲む会を企画したいので、連絡先を別掲の墨猷会連絡先にご連絡ください。お待ちしております！

墨猷会副会長 平田 道彦（昭和51年卒）

## — 修猷新聞OB・OG会 — 来年、創刊80周年です。

新聞部のOB・OG会は、平成9年（1997年）、「修猷新聞」の創刊50周年の記念事業をきっかけに正式に発足しました。以来、現役員との共同企画で、60周年、70周年、75周年と記念号を発行した他、年に一度、現役員との交流会を開催しています。

昨年、記念号やOB・OG会の活動にご尽力を頂いた前会長の福地祐一さん（S37年卒）、西牟田耕治さん（S37年卒）が鬼籍に入られました。お二人に気にかけて頂いていた創刊80周年が、来年に迫っています。これから、記念事業の準備を進めていきますが、この機会に、OB・OG会の周知を図りたいと思います。ご協力頂ける方、連絡お待ちしております。

会長 佐伯 拓史（昭和56年卒）

## — 東京修猷美術会 — 第18回修猷美術TOKYO展を迎えて

「部室のような空間が出来ればいいね」とは、福岡で開催された恩師河原先生を偲ぶ会の後日、我々東京に住む美術部OBで話した時に出了た会話です。あれから早くも「修猷美術TOKYO展」は18回展を迎える事が出来ました。今年は酷暑の八月にも拘わらず、多くの来訪者に恵まれました。年に一度の伊佐ホームズのギャラリー棟には、多くの先輩後輩が出入りし、また美術愛好家の方々に加え、時には財界人や文化人などにも来場いただき、社会との交流の場としても、一定の役割を担って来られたのではないかと思います。また今回は昭和37年卒の画家の井上武先輩（日展特別会員、示現会常務理事）に、現役時代の「修猷美術展」の草創期を語っていただく事が出来ました。これは我々の現役時代も県立文化会館を貸し切り、全力で取り組み受け継いだものでした。井上先輩にはこの場をお借りして改めて語っていただきたいと思えます。



松本 洋（昭和43年卒）

## 投稿

### 「修猷美術展」の草創期

先輩、現役の交流の場「修猷美術展」は昭和34年発足の「修猷美術会」によって福岡丸善において先輩30点、現役50点の展示で第1回展を開催した。中心は、在福の伊藤研之（二科会）、足立讓（独立）、山田栄二（独立）等々。当時部室に出入りしていた高鍋國臣先輩（S25年卒、福岡美術連盟初代理事長。のちの高美連）らに発破をかけられ、次回は東京の先輩画家の絵も展示しようということになった。手分けしてのその交渉借り受けは大変な苦勞で、私の担当は、中村研一（光風会）、琢二（一水会）兄弟、寺田竹雄（二科会）の3名であった。六光星の学帽をかぶり上京、中村研一宅へ。母校の美術展に展示をお願いしたい旨の要望に「高校生と一緒の展示では目垢がつく。」これは骨董屋が使う言葉。意味は「元値が知れて興醒めする」で「目垢が付く」ともう売り物にならないという主旨。「これは私の信念だけ。弟琢二は優しい人だからきつと貸してくれるよ。」そしてその通りとなり、寺田竹雄の作品と2点を福岡に持ち帰った。六光星の帽子だけを信用してアトリエに招じ入れていただいた心の広さに今更ながら感謝。

私たちの時代にこのような大きな事業をやり遂げたことは、奇跡である。なにしろ、半分絵描き気取りの勉強しないできん坊主の集団だったから。登校したらまず部室へ。鞆を置いて部室

から授業を受けに教室に。空き時間は部室で絵を描くかデッサンするか、それも皆無であった。いわゆるグータラである。夕方各自教室から引き揚げてくると、西新の「まるすみ」へ、そして回転焼きを。「勉強の後の回転焼きはうまかー」ほとんどバカである。「俺は夏休み東京に行くぞ。東京でないと絵は描けん」その結果が、我々の年次まで芸大合格皆無である。そういう怠惰なバカ集団が年に2回、文化祭、体育祭は燃えた。正門にアーチ形の歓迎ゲートを作るのに燃えたのである。美術部が作るとやけん、センスのあるカッコいいもの、否である。大きいもの、やたらおおいものば作るう。それが、写真のランナーである。ただ赤いだけの大きな人型である。部室でつくりあげいざ校門へ移動。出ない、部室の出入り口から出ない。窓からは？それも柱が邪魔をする。これは柱を切るしかない。ごりごりやりだすと、何事にも動じない泰然自若のカラス（田中致美先生・当時の美術教師）が飛んできた。カラスが飛ぶのをはじめてみた。やむなく、いったんアーチを解体して現場で組み立てた。この年次のワルソー坊主達も、ほとんど絵描きにならず今や鬼籍。遠くのことになりました。

井上 武（昭和37年卒）



修猷館の応援の歴史は古く、旧制中学時代から応援歌とともに連綿と続いています。部活動としての応援部は、戦後まで時代が下ります。「修猷館二百年記念誌」には、戦中・戦後間もなくは、応援活動に関する記録はなく、昭和32年8月の全国高等学校野球福岡大会で、応援団が結成され、声高らかに応援した、との西日本新聞の記事を紹介。また、当時の雑誌修猷には「昭和32年度は、応援を総合的、組織的に行い側面から選手の意気を高揚するため、生徒会の決議により『修猷館応援団』組織さる」の記述があり、現在の応援部につながっています。

応援部の同窓会組織は長らく結成されていませんでしたが、平成16年に丸林先輩（S63年卒）の掛け声のもと、名簿の整理及び応援部OB・OG会の懇親会を開催し、それ以降、四年に一度、名簿の更新及び懇親会を開催しています。

時代も変わって、現在の応援部は女性部員も増え、応援の型などは時代とともに変遷しながらも、伝統を引き継いでくれています。応援部OB・OG会から数名が応援歌伝承会に出席したり、下駄を寄贈したりするなど、現役生徒への支援活動も行っております。

現在の名簿では入江先輩（S43年卒）のお名前が一番古いものですが、まだ上の先輩もおられるとお話も伺っております。今後も応援部経験者の皆様の情報を収集し、幅広い世代が集まり、組織を盛り立てていきたいと思えます。

柴田 修（平成3年卒）

### 《部活同窓会の情報をお寄せ下さい!》

「菁莪」では、部活動を通じた同窓生の交流に関する情報も掲載したいと考えています。部活同窓会の連絡先の集約にご協力ください。

①部活同窓会名称 ②代表者氏名 ③連絡先・担当者氏名 ④活動内容（予定含む）など、同窓会事務局までお寄せください。よろしくお願ひします。

菁莪編集委員会

## 学年一口連絡アンケートナ

【昭和29年卒】 六八会の皆さんお元気ですか？

昨年の六八会は六月が16名(内女性4名)、十月が12名(内女性5名)でした。やや出席者が少なくなりました。今年は六月十一日、十月八日に西鉄グランドホテル1Fの予定です。

昨年一年に桜井、斉藤、田中丸(亮)、長尾、本吉、山下、久保山(山内)、藤(柴田) 諸氏が逝きました。黙禱。

前田 和久、岡村 祥三

【昭和32年卒】 修猷三二会員の多くは今年満八十八歳を迎える。卒業五十年の二〇〇六年は二日市温泉で百余名参加の大同窓会、福岡市美術館での美術展、プレ行事として旧満州旅行(参加四十六名)など多彩な催しを企画した。二十年目に巡ってきためでたい節目に「またやるか!」。昨秋以来、福岡グループの月例会はにぎやかな盛り上がりを見せている。 武藤 侖

【昭和33年卒】 私共さんざん会は、昨年6月20日に福岡市の福神楼で久しぶりに同窓会を開催しました。ただ今年は大半の者が85歳となり今年中には86歳となるため、最近亡くなる者が多くなっているのに愕然とします。だが、まだまだ元気な者も多いので次の米寿の年までは出来るだけ開催したいものと考えております。

入江 正徳

【昭和44年卒】 獅子の会の皆さんへ、京都で会うとこいべんトの報告です。

2000年に近畿の当番幹事を務めて25周年を記念して京都に集まりました。

11月14日は観光組26名、ゴルフ組12名、懇親会42名と15日には観光31名の参加でした。

今回はサポーター7名で企画運営しましたが、参加者の熱い協力のもと旧交を温めることができ感謝しています。また体調を整えて会える時に会いましょう。

チーム京獅子、篠崎善則、米澤和芳、井島孝、松本博康

笠原たか、瀧下真由美、高萩美佐子

篠崎 善則

【昭和45年卒】 45会の皆様、2月7日同窓会館で「しのごのB&G」の合唱発表会と令和8年新年会をコラボ開催。計報に接することが増えた今、元気に会えるうちに集える時間を大切にしたいものです。歌と交流を楽しむ。毎年の恒例行事に育っていけば幸いです。 森下 七百枝

【昭和46年卒】 10月17日に「令和7年秋よろう会同窓会in福岡」を開催しました。総勢38名の同窓生が集まって、あの時代と一緒に過ごしたからこそ分かり合える話で盛り上がり、あつという間の楽しめた2時間でした。これから春と秋の定期的な同窓会の開催を考えます。メーリングリストの登録は「学年連絡先」へご連絡ください。 学年幹事 副島 広巳

【昭和49年卒】 私たちも70歳。みんな多種多様で面白い。今までのキャリアに益々磨きをかけ掘り下げていく者、新しい世界に飛び出す者。仕事で培った外国語や経験で地域社会に大きな

貢献をしている者も多い。かつこいいいマシーンで稲刈りする者健康のために始めたスポーツで凄い賞を取った仲間もいる。減っていく体力能力も多いけれど、そんな仲間たちから新しいことに沢山気づかせてもらっている私達、4649（ヨロシク）会です。

小柳 有美

【昭和50年卒】（五輪会）前略 皆様の元にお届けしていた「気まぐれ通信」が休刊となります。

同窓生との連絡は、この青莪の「学年一口連絡アンテナ」とメーリングリストのみとなります。現在のメーリングリストに登録されているかたは、新たなMLに移行しますが、未登録の方は、itawa.kaiim@yahoo.co.jpにお名前と登録するアドレスをお伝えください。また、次の同窓会は令和8年3月14日（土）に予定されています。

MLに登録されないと詳しい同窓会案内も届きません。ご注意を!!

伊東 望

【昭和52年卒】 2025年11月8日、快晴の由布岳東登山口、52年卒の山の会メンバー8人で登山を開始。メンバーのうち私を含む2名は定年後Uターン者で今回が初参加、1名は横浜からの遠征者でした。秋深まりつつある紅葉の山道は素晴らしかったです。夜には今回は（今回も？）登らなかつた7人が合流し、焼き肉三昧。翌日は雨のため高崎山登山を断念し、周辺を観光しつつ帰福。豊後森駅ではなぜか「ゆふいんの森号」を旗を振ってお迎えするイベントに参加するなど、気の置けないメンバーとの楽しい旅になりました。福岡に戻って1年半、同級生の存在はかけがえのない私の支えになっています。山の会

の次回イベントは5月。同級生の皆様、ふるってご参加ください。

高野 智子

【昭和54年卒】 学年内のお知らせは、「54kaiML」、Facebook合志会ページ、合志会サイト (<http://54kai.star6.jp/>) をご覧ください。◆合志会サイトの公開部分には修猷関連情報を掲載しています。他学年のみなさまからの情報もお待ちしています。

合志会連絡係 菊池 政道

【昭和56年卒】 皆さん、お元気ですか？「SOAC (Sugoroku Outdoor Activity Club)」の活動が活発です。山登り、史跡めぐり、紅葉狩り等々。中でも、能古島で繰り広げられる「このこボール」の熱闘は、恒例になって来ました！ 皆さんも、ぜひ体験して下さい。住所など個人情報の変更は、それぞれ同窓会事務局に連絡して頂くよう、よろしく願います！

常任幹事 佐伯 拓史

【昭和57年卒】 早いもので還暦同窓会から2年が経ちました。剛質会の皆さん、元氣にお過ごしですか？

毎年、福岡にて、年末12月30日にゴルフ会、年始の1月2日に学年同窓会を開催しています。詳細は、都度同級生グループLINEやメールでお知らせしています。帰省の際は、ぜひ参加してください。

日頃、グループLINEで情報交換していますので、登録を希望される方は連絡ください。

常任幹事 田中 徹

【昭和58年卒】皆様、お元気ですか。大同窓会の他に、福岡では年2回同窓会を開催しています。お盆の時期は大名の『さだ幸』で、お正月は1月2日に居酒屋に集まっています。

ゴルフのメンバーも増えつつあります。実家が福岡ではない方も多いと思いますが、ぜひお会いしましょう。

木村(宮崎) 映子

【昭和60年卒】今年には還暦同窓会企画として、J R九州観光列車貸切旅行を予定しています。

令和8年11月6～7日の一泊二日を予定していますが、ダイヤ編成の都合により詳細案内は4月以降となります。

MLで配信するので未登録の方はメールアドレスをお知らせください。(学年連絡先参照) 常任幹事 中村 成克

【昭和63年卒】学年同窓会などのお知らせは、LINE、Facebook、メーリングリストで行っています。まだグループに参加されていない方は、高嶋が身近な同級生に声を掛けてみてください。また皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

常任幹事 高嶋 謙一郎

【平成元年卒】毎年1月2日とお盆前後に学年で集まっています。また毎月1日18時「ついでたち会@つるの家(092-724-3747)」開催しています。来福の際はぜひ参加してください。

常任幹事 今泉 忠

【平成2年卒】卒会のみならず、お変わりなくお過ごしでしょうか？

昨年は卒業三十五周年記念同窓会を行い、六十名ほどが集まりました。

また、桜の季節には天神中央公園にてお花見も行っています。五十代も半ばとなり、それぞれの環境下でお忙しいかと思いますが、卒会イベントにも顔を出して頂けたらと思います。

原 友子(7組)

【平成3年卒】2025年は、6月に大阪万博と、11月に海上自衛隊幹部候補生学校長の西山君の案内で、広島の高島へ行くことができました。

大阪万博は、まさに未来がここにある！壮大な大屋根リングと、パビリオンが見せてくれるテクノロジーとアートに圧倒されました。

江田島の旧海軍兵学校も素晴らしく、大講堂の高い天井と教育参考館に並ぶ特攻隊員の遺書。歴史好きにはもちろん、各人思いがけず、深く感じる旅先になりました。

今年は、2回目の箱根に行きたいと思っています。1人では行けない場所に行きたいと思っています。

讚会常任幹事 松田 由理子

【平成7年卒】七会のみならず、令和8年は近畿修会総会の幹事を務めます。

東京、福岡と繋いできましたが、学年としての幹事業務は近畿で最後になります。

11月21日(土)は是非みんなで近畿に集いましょう！

常任幹事 池下 智

【平成8年卒】 平八会のみなさま。

昨年の総会・キャリアセミナーについては、皆様のご協力のおかげで無事終えることができました。本当にありがとうございます。卒業30年の年に100名以上の同級生が集まり、本当に懐かしい2日間となりました。

来年は近畿総会の幹事です。再びつながった平八会の輪をさらに広げて、みんなで近畿総会を盛り上げましょう！

常任幹事 平田 将彦

【平成9年卒】 私たち九猷会は、5月29日(金)に開催される修猷館同窓会総会に向けて、実行委員長の原田(松田)光代さんを筆頭に、約50名の実行委員メンバーが「初めまして」「久しぶり！」と楽しみながら準備に取り組んでいます。福岡以外の方のご参加大歓迎です。「学年連絡先」に記載の峰の電話・メールまでご連絡ください。

常任幹事 峰 雅紀

【平成10年卒】 こんにちは！ 大切なこと村上弘です！ 東京修猷会総会の当番幹事お疲れ様でした！ 来年は福岡で行われる修猷館同窓会総会の幹事です！ 準備にはたくさんの同期に参加してもらいたいで気軽に連絡ください！ みんなで総会を盛り上げて卒業30周年を盛大に祝いましょう！

常任幹事 村上 弘

【平成11年卒】 平成11年卒はよせん会の皆さん、本年はいよいよ東京総会の幹事イヤーです。ひとりひとりの小さな協力の積み重ねで、大いなる盛会を目指しましょう！

才野くんはじめ関東在住メンバーの皆さん、よろしく頼みます！

す！ 全国、いや全世界のはよせん会メンバーで支えます！！

全体LINE/クラスLINE、Facebook等に顔出しされていない方は、ぜひこの機会に登録ください。

常任幹事 梅北 拓郎

【平成12年卒】 うっかり卒業25周年の集まりをしそびれてしまいました。来年2027年は東京修猷会の幹事学年です。

みんなぼちぼち集まっていきましょう！

常任幹事 松尾 光泰

【平成15年卒】 一期一会(いちごーかい)のみんな、こんにちは！ 40歳の大会に乗ったかと思ったら、今年はまだ42の歳。早いねえ。

43歳の歳には卒業25周年同窓会をやれたらいいなと思ってます。みんな、それぞれ多忙な日々を過ごしていると思うけど修猷のことをたまにでも思い出してくれたら嬉しいな。

グループLINEでもいろんなことをお知らせしていくね。夜の飲み会だけじゃなくて、子連れで集まりやすいイベントなんかもやりつつゆるっとみんなの輪を広げていきたいと思えます！

一期一会 常任幹事 森實 理恵

【平成16年卒】 皆さんご存知、レッドのブロック長が、単騎で近畿修猷会に参加してくれました。

「集え！ なにわの修猷健児！」

各クラスのグループLINEに入りたい！ という方は常任幹事川寄までご連絡ください。

常任幹事 川寄 耕大

## 学校報告

### 創立記念行事

5月23日、創立241周年記念式典および記念講演が行われた。

この創立記念行事は、天明4年（1784年）の創立から241年、長きにわたって受け継がれてきた本校の歴史を再確認し、未来へとつなぐ意義深い行事である。

記念式典では、野本準二館長が、憲法制定にも関わった金子堅太郎氏に始まり、2024年のパリパラリンピック柔道金メダリスト瀬戸勇次郎氏、ラグビー日本代表下川甲嗣氏に至るまで偉大な先輩がさまざまな形で母校への貢献をしてこられた話をしながら、241年の歴史と伝統の重みについて式辞を述べた。

### 創立記念講演

藤本昌義氏

（昭和51年卒）

記念講演では、本校昭和51年卒で、現在、双日株式会社代表取締役会長でいらつしやる藤本昌義氏より「福岡〜東京〜海外日本から、世界の国々の総合商社へ」と題して講演をいただいた。双日株式会社は、航空・自動車・社会インフラから農業や



医療まで多様かつグローバルな事業展開を行う日本を代表する総合商社である。藤本会長は日商岩井時代から、特に海外での経験を通じて、外国語習得、異文化理解にとどまらず、人間形成に繋がる多くを得て来られたお話をされた。特にベネズエラの自動車事業における労使対立の解決に注いだ熱量は膨大で、現在の信念形成に大きな影響を与えたという。リストラなど社員が追い込まれるようなことは絶対にあつてはならない、そのための大きな決断を、タイミングを逸することなく下すのが上に立つ者の責任であると述べられた。

福岡での修猷館時代、東京での東大から日商岩井時代、さらに入社5年目からの海外時代、それぞれを印象深く話していたとき、後輩たちのために、次のようなメッセージと強い印象を残され、大盛会の講演会となった。

1. とことん世界へ出ていくこと
2. 困難や挫折も経験して視野を広げていくこと
3. 挑戦そのものを楽しむこと

〔藤本昌義氏 略歴〕

昭和51年 修猷館高校卒業

昭和56年 東京大学法学部卒業、日商岩井入社

平成29年 双日代表取締役社長CEO

令和7年 同社代表取締役会長

## 文化講演会

### 「21世紀の『コペルさん』たちへ」 — AI時代君たちはどう生きるか? —

玉川大学名誉教授

岡本裕一朗氏

令和7年10月29日、講師に玉川大学名誉教授の岡本裕一朗氏をお迎えして、文化講演会が実施された。岡本先生は、AI時代を生きる現代の高校生に求められる「あるべき姿」をテーマに、生徒の心をつかみながら明快にお話いただいた。

特に印象的だったのは、現代を形作る二つのテクノロジー革命の提示である。20世紀末のバイオテクノロジー革命は、人類が自らの遺伝子を変えうる力をもたらし、ホモ・サピエンスの支配が終わる可能性を示し、さらに2010年以降のAI革命は、人間を超える知性を持つ機械が登場し、私たちが「万物の霊長」でなくなる未来を予感させる。

吉野源三郎作『君たちはどう生きるか』のコペル君に象徴される「脱・自己中心主義」に対し、現代の高校生は「脱・人間中心主義」に直面している。先生は、近未来の四つのシナリオ



を通じて、生徒たちにAIとの共生の問いを投げかけられた。生徒たちは、先生のお話を当事者として受け止め、真剣に考え、積極的に質問を重ねた。その姿勢は座談会でも続き、先生のご講演は生徒の知的好奇心を刺激し、議論の起点となった。多大な刺激と学びを与えていただいた岡本先生には心からの感謝を表したい。

#### 「岡本裕一朗氏経歴」

玉川大学 名誉教授。1954年福岡県生まれ。九州大学大学院文学研究科哲学・倫理学専攻修了。博士（文学）。九州大学助手、玉川大学文学部教授を経て、2019年より現職。西洋の近現代哲学を専門とするが興味関心は幅広く、哲学とテクノロジーの領域横断的な研究をしている。著書『いま世界の哲学者が考えていること』（ダイヤモンド社）は、21世紀に至る現代の哲学者の思考をまとめあげベストセラーとなった。ほかの著書に『フランス現代思想史』（中公新書）、『12歳からの現代思想』（ちくま新書）、『モノ・サピエンス』（光文社新書）、『ヘーゲルと現代思想の臨界』（ナカニシヤ出版）など多数。

## 令和七年 部活動

### 事業部 (4)

執行部・議長団・應援団・新聞部

### 文化部 (19)

文芸部・演劇部・映画制作部・物理部・化学部・生物研究部・数学研究部・写真部・コーラス部・吹奏楽部・美術部・書道部・ESS部・JRC部・華道部・茶道部・パソコン部・デイベート部・放送部

### 体育部 (16)

弓道部・剣道部・柔道部・水泳部・山岳部・陸上部・野球部・ソフトテニス部 (男子) (女子)・テニス部 (男子) (女子)・卓球部・バスケットボール部・バレーボール部 (男子) (女子)・ラグビー部・サッカー部・ヨット部・バドミントン部

### 総合部 (1)

文体総合部

現在40のクラブの下で現役生は元気に活動しています。各クラブ活動については修猷館ホームページ「部活動紹介」をご覧ください。

## 修猷館生の活躍

7月から8月にかけて、中国地方を中心に全国高等学校総合体育大会(インターハイ)が開催され、山岳部・陸上部・ヨット部が出場しました。特に、陸上部では男子2000mで本村優太郎(2年)が6位入賞、山岳部女子が昨年度の4位入賞に引き続きの入賞(6位)を果たすなど、全国の舞台で華々しい成果を残しています。また、同じく7月から8月にかけて香川県で行われた全国高等学校総合文化祭には新聞部・化学部・放送部・書道部が、全国中学・高校デイベート選手権(デイベート甲子園)にはデイベート部がそれぞれ出場し、運動部・文化部ともに全国の舞台での修猷生の活躍が光りました。

また、今年で創部100周年を迎えたラグビー部が、11月に第105回全国高等学校ラグビーフットボール大会福岡県予選大会で第2地区決勝に進出しました。決勝では惜しくも筑紫高校に敗れたものの、当日は500名を超える生徒が応援に駆けつけ、生徒のプレーを後押ししました。他のどの部活も、学業との両立を図りながら日々鍛錬を重ね、「文武に」活躍する姿を見せます。



# 同窓会の歩み

- 一・ 九 役員会・学年幹事会合同新年会（アークホテル口イヤル福岡天神 95名）
- 二一～一三 アジア研修（台湾）（派遣生徒11名）
- 二五 宮崎修猷会（ふるさと料理 杉の子 15名 井地副校長・中本事務局長）
- 二・ 一 鹿児島修猷会（ソラリア西鉄ホテル鹿児島 25名 中神館長・津田会長）
- 六 菁莪発送
- 一五 大分修猷会（ホテルニユーツルタ 別府市 13名 中神館長・津田会長）
- 一八 修猷協会理事会
- 二八 同窓会入会式（西高辻副会長・上田幹事長・中本事務局長 総会幹事学年H8・H9 各3名）
- 三・ 一 第76回卒業式（429名 男子210名 女子219名 津田会長・上田幹事長・中本事務局長・大賀監事・田中監事・党常任幹事）
- 四・ 八 入学式（440名 男子245名 女子195名 津田会長・上田幹事長・中本事務局長・大賀監事）
- 五・ 八 令和6年度会計監査
- 八 学年幹事会（令和6年度会計決算承認 117名）
- 二二 修猷館創立記念講演
- 二三 卒業生キャリアアセミナー
- 二四 同窓会総会（ホテルオークラ福岡 851名）
- 六・ 一 OBゴルフ大会（福岡カンツリー倶楽部 和臼コース 142名）
- 五 アメリカ研修通知書交付式（上田幹事長）
- 八 中京修猷会（コートヤード・バイ・マリオット名古屋 60名 溝田副校長・津田会長・上田幹事長）
- 一三 東京修猷会（ハイアットトリージェンシー東京 501名 野本館長・津田会長・西高辻副会長）
- 二一 中国四国修猷会（メルパルク広島 28名 野本館長・津田会長）
- 二六 修猷協会理事会・評議員会
- 七・ 九 生徒アメリカ研修（派遣生徒12名）
- 二八 佐賀修猷会（アパホテル佐賀駅南口 グリルタケシタ 33名 野本館長・中本事務局長）
- 九・ 六 大運動会
- 一〇・三一 アメリカ研修報告会（上田幹事長）
- 一一・ 六 応援歌伝承会
- 八 沖縄修猷会（穂 14名 野本館長・中本事務局長）
- 一五 近畿修猷会（ホテルモントレ大阪 279名 野本館長・津田会長）
- 二二 熊本修猷会（アークホテル熊本城前 22名 野本館長・津田会長）
- 一一・ 五 アジア研修通知書交付式（中本事務局長）
- 一二・ 六 東北修猷会（伊達のいろり焼 蔵の庄総本店 34名 野本館長・中本事務局長）
- 一三 長崎修猷会（サンブリエール 52名 野本館長・上田幹事長）

※毎月第2木曜日役員会（5月・8月・12月・1月を除く）

※名簿管理・菁莪編集・ホームページ運営・歴史伝統伝承・資料館運営 各委員会 適宜開催

# 役員会・学年幹事会報告

二月十三日 (役員会)

(1) 学校から アジア研修 参加生徒の報告

吹奏楽部定期演奏会案内

国公立大学二次試験・予餞会・部活動・文化

祭について

※「雑誌修猷」配布

(2) 各種委員会から

・菁莪編集委員会 「菁莪」発行状況について

変更点説明

・名簿管理委員会 名簿広告について

・HP運営委員会

※事務局より 同窓会名簿を利用した迷惑電話について (注

意喚起)

(3) 令和7年度同窓会総会の進捗状況について

(4) 支部総会報告

近畿 11月16日 (土) 井地副校長、西高辻副会長が参加

沖縄 11月16日 (土) 中神館長、中本事務局長が参加

熊本 11月23日 (土) 中神館長、津田会長が参加

長崎 11月23日 (土) 大塚教頭、上田幹事長が参加

東北 11月30日 (土) 中神館長、上田幹事長が参加

宮崎 1月25日 (土) 井地副校長、中本事務局長が参加

鹿児島 2月1日 (土) 中神館長、津田会長が参加

・天猷会 (H10) より 東京修猷会総会案内

(5) その他

・役員会・学年幹事会合同新年会報告

審議事項

(1) 資料館展示リニューアルについて

継続審議として3月役員会で決議予定

その他

・第172回芥川賞受賞 鈴木結生氏 (令和2年卒)

・同窓会入会式・卒業式・入学式について

三月十三日 (役員会)

(1) 学校から 文化祭について 文化祭運営委員長の告知

部活動について

行事日程について

大学合格実績

(2) 同窓会入会式について 2月28日 (金)

(3) 卒業式について 3月1日 (土) 津田会長他6名出席

(4) 各種委員会から

・資料館運営委員会

・名簿管理委員会

※事務局より 同窓会名簿を悪用した詐欺について (注意

喚起)

(5) 令和7年度同窓会総会の進捗状況について

(6) 支部総会報告

大分 2月15日 (土) 中神館長、津田会長が参加

(7) 修猷協会報告

審議事項

- (1) 資料館展示リニューアルについて

四月十日 (役員会)

- (1) 学校から 管理職の紹介

進路実績について

部活動について

- (2) 入学式について 4月8日(火) 津田会長他3名出席

- (3) 各種委員会から

・ 資料館運営委員会

・ 歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会11月6日に開催

・ 名簿管理委員会

- (4) 事務局次長の任命について

- (5) 令和7年度同窓会総会の進捗状況について

審議事項

- (1) 令和7年度学年幹事会について

五月八日 (学年幹事会)

議事

- (1) 令和6年度事業報告及び収支決算書(案)

- (2) 会計監査報告並びに決算承認の件

- (3) 令和7年度事業計画(案)及び予算(案) 審議並びに承認の件

- (4) 役員選任の件

その他

- ・ 令和7年度同窓会総会について

六月十二日 (役員会)

- (1) 学校から 創立記念式典について

アメリカ研修について

文化部発表会について

部活動について

- (2) 学年幹事会報告

- (3) 同窓会総会報告 幹事学年平八会より開催の報告とお礼

- (4) 支部総会報告

中京 6月8日(日) 溝田副校長、津田会長、上田幹事長が

参加

- (5) 各種委員会から

・ 資料館運営委員会

・ 名簿管理委員会

・ 菁莪編集委員会

- (6) その他

・ アメリカ研修通知書交付式について

・ 令和8年度同窓会総会のチケット料金について

その他

・ 修猷協会役員・評議員について

七月十日 (役員会)

(1) 学校から アメリカ研修について

部活動報告 全国大会出場  
運動会案内

(2) 支部総会報告

東京 6月13日 (金) 野本館長、津田会長、西高辻副会長が  
参加

中国四国 6月21日 (土) 野本館長、津田会長が参加

(3) 修猷協会理事会・評議員会報告

(4) 各種委員会から

・資料館運営委員会

・名簿管理委員会

・菁莪編集委員会

(5) 令和8年度同窓会総会について

九月十一日 (役員会)

(1) 学校から アメリカ研修報告 参加生徒より報告

運動会について

部活動報告 全国大会出場

(2) 支部総会報告

佐賀 7月28日 (月) 野本館長、中本事務局長が参加

(3) 総会幹事学年引き継ぎについて

平成8年卒平八会から平成9年卒九猷会へ

※平成10年卒天猷会 オブザーバー参加

(4) 各種委員会から

・資料館運営委員会

・菁莪編集委員会

(5) その他

・同窓会名簿の選挙活動使用禁止の件について  
審議事項

(1) 常任幹事の交代について

定時制部会・香野信儀氏 (S34) ↓ 山下昌一氏 (S53)

その他

・支部総会開催予定

十月九日 (役員会)

(1) 学校から 文化講演会について

「修猷フェスト」について

2年生研修旅行について

部活動報告 国民スポーツ大会出場

(2) 各種委員会から

・資料館運営委員会

・菁莪編集委員会 学年一口アンテナの原稿依頼

・歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会について

(3) 令和8年度同窓会総会の進捗について

審議事項

(1) 令和9年度同窓会総会・懇親会の日程について

開催案 令和9年5月29日 (土)

幹事学年・平成10年卒天猷会

その他

- (1) 名簿内容の確認について
  - (2) 支部総会開催予定
  - (3) 令和8年役員会・学年幹事会合同新年会開催予定
- 十一月十三日(役員会)
- (1) 学校から 部活動報告
    - アメリカ研修報告会について
    - 修猷フェスト・出前授業について
    - 応援歌伝承会について
  - (2) 支部総会報告
    - 沖繩 11月8日(土) 野本館長、中本事務局長が参加
  - (3) 各種委員会から
    - 資料館運営委員会
    - 菁莪編集委員会 学年一口アンテナの原稿提出のお願い
    - 歴史伝統伝承委員会 11月6日(木)に応援歌伝承会実施
  - (4) 令和8年度同窓会総会の進捗について
- その他
- ・役員会・学年幹事会合同新年会の開催について
- 日時…令和8年1月8日(木) 19時開始  
場所…アークホテルロイヤル福岡天神

### 「勧誘電話にご注意ください」

同窓会名簿を利用したとみられる勧誘電話の情報が寄せられています。

このような勧誘電話とは同窓会は一切関わりありませんのでご注意ください。

同窓会名簿は同窓生以外には販売しておりません。複製、転売は禁止です。

同窓生の皆さま、名簿の取り扱いにくれぐれもご注意くださいようお願いいたします。

※「個人情報保護方針」については、同窓会ホームページに掲載しています。

# 令和6年度 同窓会会費入金状況

令和6.4.1～令和7.3.31

卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費	卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費
昭 16	121	0	0	0	0	62	394	0	0	0	0
17	142	0	0	0	0	63	424	0	0	0	0
18	159	0	0	0	0	平 1	371	1	20,000	0	0
19	126	0	0	0	0	2	407	0	0	0	0
20 (5)	131	0	0	0	0	3	425	0	0	0	0
20 (4)	124	0	0	0	0	4	441	0	0	0	0
21・22	156	0	0	0	0	5	396	0	0	0	0
23・24	241	0	0	1	2,000	6	436	0	0	1	2,000
25	194	0	0	0	0	7	449	0	0	0	0
26	208	0	0	1	2,000	8	484	0	0	0	0
27	268	0	0	1	2,000	9	438	0	0	0	0
28	269	0	0	2	4,000	10	429	0	0	0	0
29	250	2	40,000	2	4,000	11	432	0	0	0	0
30	254	1	20,000	1	2,000	12	394	0	0	0	0
31	243	0	0	3	6,000	13	389	0	0	0	0
32	263	0	0	2	4,000	14	396	0	0	0	0
33	279	0	0	1	2,000	15	397	0	0	0	0
34	264	0	0	6	12,000	16	402	0	0	0	0
35	263	2	40,000	2	4,000	17	398	0	0	0	0
36	275	0	0	2	4,000	18	397	0	0	0	0
37	249	0	0	3	6,000	19	390	0	0	0	0
38	238	0	0	1	2,000	20	390	0	0	0	0
39	201	0	0	5	10,000	21	390	0	0	0	0
40	272	0	0	5	10,000	22	390	0	0	0	0
41	332	0	0	6	12,000	23	397	0	0	0	0
42	312	3	60,000	3	6,000	24	393	0	0	0	0
43	334	1	20,000	1	2,000	25	435	0	0	0	0
44	298	1	20,000	3	6,000	26	402	0	0	0	0
45	312	2	40,000	3	6,000	27	399	0	0	0	0
46	273	2	40,000	2	4,000	28	433	0	0	0	0
47	291	1	20,000	1	2,000	29	433	0	0	0	0
48	250	1	20,000	1	2,000	30	398	0	0	0	0
49	287	1	20,000	3	6,000	31	427	0	0	0	0
50	295	5	100,000	3	6,000	令 2	436	0	0	0	0
51	312	0	0	1	2,000	3	392	0	0	0	0
52	250	3	60,000	2	4,000	4	433	0	0	0	0
53	224	2	40,000	0	0	5	434	0	0	0	0
54	241	0	0	2	4,000	6	389	0	0	0	0
55	246	3	60,000	2	4,000	合 計	27,067	41	820,000	77	154,000
56	270	2	40,000	5	10,000	卒 業 生 会 費 計					974,000
57	243	3	60,000	0	0	通 信					42,000
58	257	3	60,000	0	0	定 時					30,000
59	413	0	0	0	0	卒業生終身会費年会費合計					1,046,000
60	382	1	20,000	0	0	令 7 年 卒 業 生 終 身 会 費			429		8,580,000
61	395	1	20,000	0	0	總 合 計					9,626,000

### 第3章 学年幹事

第9条 学年幹事は全日制各年次3名以内（定時制・通信制は若干名）を選任し、本会に報告する。

第10条 学年幹事は学年幹事会を構成し、その付託事項を処理する。

### 第4章 会 議

#### 第11条 総会

定期総会は原則として毎年5月30日（母校創立記念日）に会長が招集し、役員を選任・予算・決算・規約改正およびその他の会務報告を行う。

2. 臨時総会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

#### 第12条 学年幹事会

学年幹事会は学年幹事をもって組織し、役員を選任・予算・決算・規約改正、その他会務執行に必要な重要事項を審議決定する。

2. 定期学年幹事会は原則として毎年5月の第2木曜日に会長が招集する。

3. 臨時学年幹事会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

4. 学年幹事会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

#### 第13条 役員会

役員会は役員をもって組織し、予算・決算・規約改正案の作成および会務執行に必要な事項を審議し処理する。

2. 会長は随時必要なときにこれを招集し、議長となる。

3. 役員会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

### 第5章 組 織

#### 第14条 委員会

本会は会務執行にあたり、必要な場合に委員会を設置することができる。

#### 第15条 事務局

本会に事務局を置き、事務局長1名、事務局次長1名および事務職員若干名をおくものとする。

#### 第16条 支部

本会は遠隔地の会員との連絡を密にするため、必要な地に支部を置くことができる。

2. 支部の結成は代表者の申し出により、役員会の承認を受ける。

3. 支部の運営は各支部の定めるところとする。

### 第6章 会計および庶務

第17条 本会の経費は会費および寄付金および運用収入をもって充てる。

第18条 本会の会費は終身会費20,000円、年会費2,000円および特別会費とする。

第19条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第20条 本会は一般財団法人修猷協会の運営管理に関する権利は相応に保有するものとする。

### 第7章 補 則

第21条 本会会務の処理に必要な細則は別に定める。

第22条 本会則は昭和43年5月30日より施行する。

昭和49年5月30日一部改正。

昭和53年5月30日一部改正。

昭和55年5月30日一部改正。

昭和59年5月30日一部改正。

平成21年5月30日一部改正。

平成27年5月30日一部改正。

# 修猷館同窓会会則

## 第1章 総 則

第1条 本会は修猷館同窓会と称する。

第2条 本会は事務局を福岡市早良区西新3-12-14：修猷館同窓会館内に置く。

第3条 本会は会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与することを目的とし、次の事業を行う。

- 1) 会員名簿の発行
- 2) 同窓会誌「菁莪」の発行
- 3) 創立記念事業
- 4) その他必要な事業

第4条 本会は次の会員によって組織する。

- 1) 通常会員
  - イ) 福岡県立中学修猷館卒業生  
福岡県中学修猷館卒業生
  - ロ) 福岡県立高等学校修猷館卒業生  
福岡県立修猷館高等学校卒業生
  - ハ) 上記の学校に在籍した者で入会を希望する者
  - ニ) 福岡県立修猷館高等学校定時制卒業生
  - ホ) 福岡県立修猷館高等学校通信制卒業生
- 2) 特別会員  
上記学校の教職員および旧教職員
- 3) 準会員  
福岡県立修猷館高等学校在校生

## 第2章 役 員

第5条 本会に次の役員を置く。

会 長	1名	副 会 長	若干名	名 誉 会 長	1名
常 任 幹 事 長	1名	事 務 局 長	1名	監 事	2名
常 任 幹 事	全日制各年次	1名	(40名以内)		
定 時 制・通 信 制	若干名				
相 談 役	1名	顧 問	若干名		

第6条 本会役員を選任は次のとおりとする。

- 1) 会長・副会長および監事は通常会員中より役員会において選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 2) 名誉会長は母校館長とする。
- 3) 常任幹事は、原則として卒業後17～56年次および定時制・通信制会員より選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 4) 常任幹事長は常任幹事中より会長が委嘱する。
- 5) 上記以外の役員は通常会員中より会長が委嘱する。

第7条 役員は次の任にあたる。

- 1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその代理をする。
- 3) 常任幹事長は会長の意を受け、円滑な会務の運営にあたる。
- 4) 事務局長は金銭の収支、会費の徴収、議事録の作成その他本会事務一般にあたる。
- 5) 監事は会計事務を監査する。
- 6) 常任幹事は本会の会務を執行処理する。
- 7) 名誉会長、相談役および顧問は本会の諮問に応じる。

第8条 本会役員任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

## ☆ 同窓会事務局だより ☆

### 【会員登録内容の確認について】

登録内容に変更がありましたら、下記の要領で同窓会事務局にご連絡ください。

#### 【登録項目】

- ①氏名(旧氏名) ②最終学歴 ③自宅住所・電話番号 ④勤務先名・電話番号  
※登録できる住所は、1会員につき1箇所としています。国外への『菁我』の郵送はいたしかねますので、郵送希望の方は国内の連絡先をご登録ください。  
※登録内容の確認は、同窓会名簿をご活用ください。

#### 【変更のご連絡について】

変更のご連絡は、メール・FAX・郵送にてお願いします(卒業年次を必ずご記入ください)。ご家族の方にはお願いですが、会員ご本人様が亡くなられている場合は事務局までご連絡ください。

### 【会費納入のお願い】

**終身会費の納入がお済みでない会員に、郵便局用「払込取扱票」を同封しております。**

終身会費または年会費いずれかの納入をお願いいたします。

#### 【同窓会費】

- ①終身会費 20,000円(1回限り) ②年会費 2,000円(毎年納入)

#### 【納入方法】 ①②のいずれかの方法で納入ください。

- ①銀行振込(振込手数料のご負担をお願いします)  
・福岡銀行 西新町支店 普通預金1094481  
・西日本シティ銀行 西新町支店 普通預金1544288  
・ゆうちょ銀行 一七九店(イチナナキューウ店) 当座預金0008320  
口座名義(共通):修猷館同窓会(シュウユウカンドウソウカイ)  
※振込の際は、ご依頼人の記載を「卒業年次+氏名」としてください。

(例)「S61シュウユウケンジ」「H7ニシノミソラ」

- ②郵便局での払込み(同封「払込取扱票」利用の場合、手数料同窓会負担)  
「払込取扱票」に必要事項を記入して払込みをお願いします。

### 【修猷館への寄附のお願い】

修猷館同窓会は、一般財団法人修猷協会を通じて長年にわたり修猷生の海外研修旅行への助成や学校活動・教育環境整備に関する助成を行ってまいりました。(次頁「修猷協会活動報告」ご参照)

「世の為人の為」に代表される修猷館教育を今後も展開するためには、皆様からのご支援ご協力が必要です。助成事業の取り組みにご賛同をいただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆**寄附の方法** 下記銀行口座に振込みをお願いします。振込手数料はご負担ください。

- ・福岡銀行 西新町支店 普通預金 74436  
・西日本シティ銀行 西新町支店 普通預金 3012134  
口座名義:一般財団法人修猷協会 ザイ)シュウユウキョウカイ

#### ◆**税制上の優遇措置**

修猷協会への寄附金は、税額控除が認められる指定寄附金となりません。

※現在、税額控除が認められる公益財団法人への移行の準備を進めています。

※ご寄附いただく場合は、寄附者の確認などのため事前に下記までご連絡ください。

☆ 修猷館同窓会事務局 ☆ (受付時間:月~金 10:00~16:00)

〒814-0002 福岡市早良区西新3-12-14

TEL:092-821-0663 FAX:092-821-0672

メールアドレス:jimukyoku@shuyukan-dosokai.com

◎ホームページURL: <https://shuyukan-dosokai.com/> 詳細はこちらから⇒



# 令和6年度 一般財団法人修猷協会活動報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

## 【修猷協会とは？】

修猷館高校の教育の充実向上を助成し、将来社会に貢献できる人材を育成・輩出することを目的に設立され、同窓会、学校、PTAが協力して運営している法人です。具体的には生徒の海外研修旅行への助成や生徒の学校活動・教育環境整備に関する助成を行っています。

### 1. 令和6年度事業報告 助成額：2,200万円（前年比 +1,200万円）

#### (1) 定例助成：1,000万円

- ①海外研修旅行への助成 助成額：500万円（アメリカ研修450万円、台湾研修50万円）
- ②生徒の学校活動・教育環境整備に関する助成 助成額計：500万円
  - ・文化祭活動 30万円 ・運動会活動 100万円 ・部活動遠征費 150万円
  - ・文化講演会 30万円 ・施設設備・備品等の整備 190万円

#### (2) 特別助成（創立240周年記念事業）：1,100万円

生徒用トイレ 洋式便座ウォシュレット化事業47台（竣工 令和6年8月16日）

#### (3) その他助成：100万円 卒業入学記念品等

### 2. 資産・収支の概要

令和7年3月末の資産合計は約7億2千万円であり、そのうち同窓会館の土地建物、学校グラウンド人工芝などの資産を差し引いた約3億円及び同窓会館1階部分のローソンへの賃貸や駐車場による収入が助成事業の原資となります。

令和6年度の収支は、ローソンへの賃貸や駐車場による収入、寄附金など合計で2,540万円の収入、上記助成額2,200万円を含んだキャッシュベースの費用は3,300万円となりました。

### 3. 役員（理事・監事）及び評議員の状況

#### (1) 理事10名（同窓会6名、学校2名、PTA2名）

- ・同窓会：津田純嗣（S44）大賀啓史（S46）田中雅美（S50）上田英友（S55）  
中本純徳（S61）三戸宗一郎（H2）
- ・学校：館長、事務長 ・PTA：会長、副会長

#### (2) 監事2名（同窓会2名）菊池武彦（S49）池下智（H7）

#### (3) 評議員12名（同窓会7名、学校2名、PTA3名）

- ・同窓会：久保田勇夫（S36）西高辻信良（S47）谷川浩道（S47）藤井一郎（S50）  
佐伯拓史（S56）福泉忠興（S59）石橋顕（H4）
- ・学校：副校長、教頭 ・PTA：副会長3名

### 4. 今後の取り組みなど

物価高騰の影響が大きく、例年通りの助成額であっても実質的な助成は目減りしています。特に海外研修参加生徒の自己負担の増加を懸念しており、施設設備の整備費用や部活動支援も含め、助成増額が必要です。今後は修猷協会を一般財団法人から公益財団法人へ移行することで、税優遇による支出削減、寄付金による収入増を図り、学校への助成増額を実現したいと考えています。修猷協会の趣旨と助成事業及び公益財団法人への移行の取り組みにご賛同いただき、寄付金等を含めた皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

# 修猷館同窓会役員名簿 (自二〇二五年五月 至二〇二七年五月)

顧問	波多野聖雄 (S 26卒)	常任幹事	高嶋謙一郎 (S 63卒)
相談役	出光 芳秀 (S 31卒)	(事務局長)	今泉 忠 (H 1卒)
名誉会長	久保田勇夫 (S 36卒)	常任幹事	三戸宗一郎 (H 2卒)
会長	津野本 準二 (館長) (S 44卒)	幹事	花田由理子 (H 3卒)
副会長	津田 純嗣 (S 44卒)		石橋 顕 (H 4卒)
	長等 健次 (S 45卒)		能見 信二 (H 5卒)
	西高辻信良 (S 47卒)		党 智 (H 6卒)
	谷川 浩道 (S 47卒)		池下 智 (H 7卒)
	藤井 一郎 (S 50卒)		平田 将彦 (H 8卒)
常任幹事	上田 英友 (S 55卒)		峰 雅紀 (H 9卒)
事務局	中本 純徳 (S 61卒)		村上 弘 (H 10卒)
常任幹事	森下七百枝 (S 45卒)		梅北 拓郎 (H 11卒)
	鞍垣 吉政 (S 47卒)		松尾 光泰 (H 12卒)
	黒木 篤 (S 48卒)		赤司 雅之 (H 13卒)
	小柳 有美 (S 49卒)		中村 道彦 (H 14卒)
	半田 敦士 (S 51卒)		河野 理恵 (H 15卒)
	作間 功 (S 52卒)		川喜 耕大 (H 16卒)
	堤 勝也 (S 53卒)		青木 仁敬 (H 17卒)
	菊池 政道 (S 54卒)		稲留 慶司 (H 18卒)
	佐伯 拓史 (S 56卒)		矢野 恵奈 (H 19卒)
	田中 徹 (S 57卒)		大和 尚之 (H 20卒)
	福吉 祐子 (S 58卒)		進藤 靖子 (通58卒)
	福泉 忠興 (S 59卒)		山下 昌一 (定53卒)
	中村 成克 (S 60卒)	監	大賀 啓史 (S 46卒)
	松本 一範 (S 62卒)	事	田中 雅美 (S 50卒)

# 各支部会長名簿

東京修猷会会長 等	健次 (S 45卒)	大分修猷会会長	井上 正文 (S 44卒)		
中京修猷会会長	嶋尾 正 (S 43卒)	熊本修猷会会長	井上 昌治 (S 51卒)		
近畿修猷会	滋 (S 54卒)	宮崎修猷会会長	池田 正浩 (S 56卒)		
代表世話人	中原 北九州修猷会会長	津田 純嗣 (S 44卒)	鹿兒島修猷会会長	衛藤 威臣 (S 37卒)	
	北九州修猷会会長	駒井 英基 (S 49卒)	沖繩修猷会会長	國吉 妙子 (S 44卒)	
	佐賀修猷会会長	長崎修猷会会長	中牟田真一 (S 41卒)	東北修猷会会長	工藤 砂織 (S 56卒)
	中国四国修猷会会長	森下 兼年 (S 57卒)			

## あとがき

今回も善哉発行にあたり、各方面、各世代の同窓生から素晴らしい原稿を寄せていただきました。誠にありがとうございました。今回初めて善哉は我がいかがでしたでしょうか。私事ではありますが、今回初めて善哉編集委員を務めさせていただきました。右も左もわからない中、芥川賞を受賞された令和2年卒の鈴木結生さんにインタビューをさせていただきました。大変貴重な経験となりました。鈴木さんの修猷でのエピソードには編集委員一同笑わせていただき、和やかなインタビューとなりました。ぜひ特集をお読みください。

先日、大運動会を見に行ってきました。常任幹事になって初めての運動会だったので、来賓テントに入らせていただき、アリーナからタンピングや応コンを我が子と共に楽しませていただきました。新芽のような若き後輩たちの躍動を見ながら、修猷館を卒業するときに「修猷を誇るなれ。修猷が誇る人となれ」という言葉を思い出したのを思い出しました。当時の私はこの言葉を「社会的に地位のある仕事につけたい」という意味だと、捻くれた捉え方をしていました。しかし、「マスコ」に全力を注ぎ、7ピラやダンス、応コンに挑み、息ひたりのパフォーマンスを見てくれる後輩たちの姿に、気がついていたら泣いていました。修猷館が教えてくれたことは社会的に地位のある仕事につくとか、「一流大学に行くとか、そういうことではなかった。自分を信じ、仲間を信じ、自分にできることを一杯全力でやり切ること。そして、自分で自分を幸せにすると自分に誓うことなんだと感じたのです。

四十代になり、ますます人生は自分次第なんだと感じる日々です。修猷館が教えてくれたことを、これからも自分の人生を活かしていきたいと強く思わせてくれた、素晴らしい運動会でした。現役の修猷生の活躍、同窓生の様々な思いをこの善哉に載せ、館友の皆様に乗しんでいただけるよう、編集委員一同精進してまいります。本年もまた、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

河野理恵記

令和8年度

# 修猷館同窓会総会

2026年5月29日(金)

福岡国際会議場

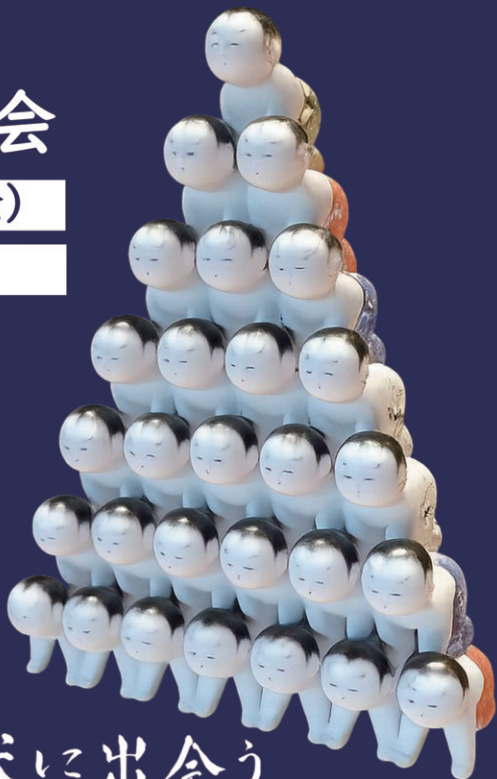
お帰りはジャンボタクシー使えます!  
(天神・博多まで無料運行)

総会 : 18時00分~

懇親会 : 18時30分~



令和8年度  
修猷館同窓会総会  
ホームページ  
(九猷会)



## 旧猷に会う、新猷に出会う

同窓会は、高校時代を共に過ごした旧友と再会し、懐かしい思い出を語り合うかけがえないひととき。若き日に抱いた志、「猷(みち)」をあらためて思い起こす時間でもあります。また、学年を越えて同窓生との新しいご縁のきっかけにもなれば幸いです。もしかしたら皆さんにとって新たな「猷」が見つかるかも。いつの時代も輝き続ける六光星に導かれながら、過去を振り返りつつ未来へつなごうご縁となることを願い、皆さまとお会いできる日を心より楽しみにしています。

令和8年度 修猷館同窓会総会 実行委員長 原田光代(平成9年卒 九猷会)

■チケットのおしらせ オンラインチケットは右の二次元コードから!

前売り券(一般):9,000円 当日券(一般):10,000円

H27年~R7年卒限定:5,000円 R8年卒限定:2,000円

※チケット問い合わせ先(090-7460-8954)



★ SNSのおしらせ ★

↓ Instagram



@SHUYUKANGYUKAI



Facebook ↓



第50回 修猷OBゴルフ大会

2026年6月7日(日)

福岡カンツリー倶楽部 和白コース



50周年大会です!  
西のみぞらにナイスショット!!



修猷館同窓会誌

## 菁 莪

発行者 修猷館同窓会

福岡市早良区西新三丁目十二―十四  
電話(〇九二) 八二二―〇六六三  
FAX(〇九二) 八二二―〇六七二

代表者 津田 純嗣

発行日 令和八年一月三十一日

編集者 菁莪編集委員会

佐伯 拓史・森下七百枝  
鞍垣 吉政・小柳 有美  
堤 勝也・弥吉 祐子  
石橋 顕・河野 理恵  
矢野 恵奈

印刷 祥文社印刷株式会社